

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

和仏法律学校講義録

島田, 鐵吉 / 杉本, 貞治郎 / 吾孫子, 勝 / 松岡, 義正 / 若槻, 禮次郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

6

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

49

(発行年 / Year)

1903-09-01

○ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3

(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可。毎月十五同一日五日六日八日、
十日十五日十六日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿九日三十日發行)

明治三十六年九月一日發行

三十六年度 特別法ノ六

和佛法律學校講義錄

號壹拾七百第

和佛法律學校

特別法第六號目次

現行租稅法論(自八六〇)

法學士若槻禮次郎

戶籍法(自一七三)

法學士島田鐵吉

人事訴訟手續法(自七三九)(完)
表紙及七目次
四頁

法學士松岡義正

競賣法(自一九八)

法學士吾孫子勝

特許法(自五八七)

法學士杉本貞治郎

雜報

○町村ノ區性質○行政裁判法第十七條第三項ノ法意○他人ノ管業免許取消ノ請求

090
1903
5-6

カ他ノ公共團體ノ所有ニ係ルトキト雖モ尙ホ免租ノ限ハ在テス
b. 府縣郡市町村其他之ニ準スヘキ公共團體ノ所有地タルコトヲ指ス。公共團體ナル文字ハ法律上ノ新用語ニシテ公法人ハ總ヲ之ヲ指スモノナルヤ又ハ公法人中自主權ヲ有スルモノノミヲ指スモノナルヤハ尙ホ未タ明瞭ナラス然レトモ本年法律第十九號ハ免租ノ特典ヲ府縣郡市町村及ヒ之ニ準スヘキ公共團體ニ限リタルヲ以テ府縣等ノ如キ自主權ヲ有スルモノニアラサレハ免租ノ特典ヲ有セス水利組合ノ如キハ之ヲ町村等ニ準スルコトヲ得ヘキヲ以テ其所有地ハ地租ヲ免スヘキモノナリト雖モ商業會議所重要物產組合ノ如キハ町村等ニ準スルモノト謂フコト能ハザルヲ以テ其所有地ハ免租スヘキモノニアラス。公用ニ供スルコトヲ要ス。廳舍、學校、病院、圖書館、博物館等ノ敷地、共同物揚場、共同物置場、公園、下水用地等凡ソ公衆ノ用ニ供スル土地ハ之ヲ免租スヘキモノナリト雖モ公共團體カ收利ノ目的ヲ以テ所有シ之ヲ公衆ノ用ニ供セザルモノハ其地租ヲ免スヘキモノニアラス。

三要件ヲ具備スルヲ以テ其地租ヲ免スヘキモノナリト謂フ者アリト雖モ法律ハ「公共團體ノ所有地ニシテ其ノ公用ニ供スルモノ」ト規定シ所有者タル公共團體ク其公用ニ供スルコトヲ必要トスルヲ以テ借入レテ公用ニ供スル土地ハ縱令其所有者カ公共團體ナルモ免租スヘキモノニアラス況ヤ主觀的ニ觀察スルトキハ所有者タル公共團體カ此ノ如キ場合ニ於テ其所有地ヲ公用ニ供スト謂フコト能ハサルニ於テフヤ

(ロ) 鄉村社地地租條例第四條 神社地ニシテ官有ニ係ルモノハ地所名稱區別ニ依リ地租ヲ課セサルモノナリ其民有ニ係ルモノト雖モ鄉社、村社ノ資格アル神社ノ敷地ニ限リ其地租ヲ免スルモノトス但シ鄉村社ノ敷地ト雖モ借入レタルモノハ免租ノ限ニ在ラス地租條例施行規則第三條神社ノ人格成文法上ニ確認セラレサル今日ニ於テ神社所有地ナルモノノ何物タルヤハ之ヲ説明スルコト容易ナラズト雖モ官有地ニアラス又他ニ所有權ヲ主張スル者ナキ鄉村社ノ敷地ハ即チ之ヲ借入地ニアラサル鄉村社地ナリト謂フテ不可ナカルヘシ

(ハ) 墳墓地地租條例第四條 墳墓トハ人ノ死體又ハ遺骨ヲ埋葬スル場所ナリ

故ニ斃牛馬ヲ埋却スル場所ハ免租スヘキモノニアラス又火葬場ハ死體ヲ焼却スルノミニシテ之ヲ埋葬スルニアラサルカ故ニ之ヲ墳墓ト謂フコト能ハス隨テ地租ハ之ヲ免スルコトヲ得ス

(二) 用惡水路地租條例第四條 用水路トハ田地ノ澆灌ニ供スル養水ヲ引ク水路ニシテ惡水路トハ田畠ノ害ヲ成スヘキ冷水等ヲ排去スヘキ水路ナリ即チ用水路惡水路共ニ耕地ニ關シ其用ヲ成スヘキ水ヲ引キ其害ヲ成スヘキ水ヲ去ルノ線路ナルカ故ニ耕地ニ關係ナクシテ水ヲ引用シ又ハ排去スルモノハ之ヲ用惡水路ト謂フコト能ハス故ニ水車ニ水ヲ引ク線路又ハ舟楫ヲ通スル掘削等ニシテ民有ニ屬スルモノハ其地租ヲ免スヘキモノニアラス

(ホ) 潟池地租條例第四條 潟池トハ田地ノ澆灌用水ヲ蓄溜スルノ目的ヲ有スル池ナリ

(二) 隘塘地租條例第四條 隘塘ハ其文字ノ示ス如ク水ノ横流ヲ防クカ爲メニ築造セラレタルモノナリ

(ト) 井溝地租條例第四條 井溝トハ井及ヒ溝トノ謂ニアラス田地ノ養水ヲ引

用スル一種ノ溝ヲ指稱スルモノナリ用水路トノ間ニ於テハ法律上殆ト區分アルモノセアラスト雖モ強テ其區別ヲ求ムルトキハ其大小又ハ流水ノ多少ヲ擧タルノ外ナキカ如シ

(テ) 鐵道用地地租條例第四條(官設鐵道ニ於テハ鐵道用地ハ官有地ナルヲ以テ地租ヲ課セサルモノナリト雖モ私設鐵道ト雖モ鐵道ハ一種ノ道路ニシテ公衆ハ之ニ依リテ交通ノ便ヲ享クルモノナルカ故ニ法律ハ其用地ノ地租ヲ免スルヲ相當トシタリ而シテ鐵道用法ノ何物タルヤハ私設鐵道條例第八條及ヒ改正私設鐵道法第41條ニ於テ之ヲ規定シ鐵道交通ニ必要ナル土地ノミニ限定スルヲ以テ現今各地ニ於テ目擊スル停車場附近ニ設ケラレタル休憩所又ハ飲食店ノ如キモノノ敷地ハ經令鐵道營業者ノ所有ニ係ルモノト雖モ其地租ハ之ヲ免スルコトヲ得ス

(ツ) 公衆ノ用ニ供スル道路地租條例第四條(道路ニシテ官有地ナルトキハ地所名稱區別ニ依リテ地租ヲ課セス府縣郡市町村及ヒ之ニ準スヘキ公其團體ノ所有地ナルトキハ其公衆ノ用ニ供スルモノハ本年法律第十九號ニ依リ其地租ヲ免セラルモノナリ而シテ官有地又ハ公共團體ノ所有地ニアラナルモ公衆ノ用ニ供セラル道路ハ公衆ノ用ニ供セラルモノナルコトヲ要スルカ故ニ私邸内ニ有ニ係ルヲ問ハス之カ地租ヲ徵收セサルコトト爲スヲ以テ相當トスト雖モ供用ノ目的ニ依リテハ公用ニ供スト稱シテ往往私用ニ資スルコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ廣々公用ニ供スル土地ヲ免租スルトキハ法律ノ規定ヲ利用シテ其私ヲ濟スコトアルラ免レス然ルニ道路ノ如キモノハ他ノ土地ト異ニシテ其供用狀態ハ劃然判明セラルカ故ニ濫ニ至ルノ恐ナキモノナリ故ニ法律ハ道路ハ其何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ免租スルコトト爲シタリ但シ免租ノ特典ヲ有スル道路ハ公衆ノ用ニ供セラルモノナルコトヲ要スルカ故ニ私邸内ニ於ケル道路ノ如キハ地租ヲ免セラルヘキモノニアラナルコトハ論ヲ缺タス

(ヨ) 保安林(森林法第二八條)保安林ニ編入スルコトヲ得ル土地ハ森林法第八條ヲ以テ之ヲ定ム而シテ保安林ニ編入セラレタルモノハ同法第十九條乃至第二十五條ノ制限ヲ受ケ所有者ハ自由ノ收益ヲ爲スコト能ハナルモノナルカ故ニ其地租ハ之ヲ免スルコトト爲シタリ地租條例第四條ハ禁伐林ノ免租ヲ規定スト雖モ森林法ハ禁伐林ナル名稱ヲ使用セサリシヲ以テ今後禁伐林ナルモノ

ヲ生スルコトナク又從來ノ禁伐林ハ森林法第三十條ニ依リ同法施行ノ日當リ
保安林ト爲リタルモノナルヲ以テ民有地ニシテ地租ヲ免スル森林ハ今日ニ於
テハ獨リ保安林アルノミ

(八) 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル土地砂防法第一一條
明治三十二年勅令第三百七十四號第一條 砂防法第十一條ニ依レハ同法第二
條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租ヲ免スルコ
トヲ得ト爲スカ故ニ免租ノ條件及ヒ免租スヘキ土地ハ一ニ勅令ノ定ムル所ニ
從フヘキモノトス而シテ明治三十二年勅令第三百七十四號第一條ハ砂防法ニ
依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテ地租ヲ免除スルコトヲ得
ルコトヲ定ム砂防法第二條ハ砂防設備ヲ要スル土地ト治水上砂防ノ爲メ一定
ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スヘキ土地トノ二種ヲ包含シ其第十一條ハ此二種共
ニ地租ヲ免スルコトヲ得ヘキコトヲ定ムト雖モ明治三十二年勅令第三百七十
四號砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ノミヲ免租スヘキヨ
トヲ定メタルヲ以テ右ノ中後者ハ無論其地租ヲ免スルコトヲ得ルモ前者ニ付

ヲハ砂防法第四條ニ依リ地方行政廳カ特ニ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止
若クハ制限スルニアラサレハ其地租ヲ免セサルカ如シ然レトモ此ノ如キハ明
文ニ拘泥シテ法規ノ精神ヲ沒スルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ勅令ノ
所謂一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタルナル用語中ニハ砂防設備ヲ施シタル場
合ニ於テ其土地ヨリ其設備ヲ排除スル能ハサルコトモ亦包含スルモノナリト
解スルヲ以テ穩當ト爲スヘシ如何ナル禁止又ハ制限ハ地租免除ノ事由ト爲ル
ヤハ法律及ヒ勅令ノ共ニ限定セサル所ナルヲ以テ一二行政官ノ見ル所ニ依リ
ヲ定マルモノトス

丑 有期免租地 有期免租地トハ一定ノ期間ヲ定メ其間地租ヲ免スル土地ヲ
云フ無期免租地ハ土地ノ一定ノ供用又ハ制限ノ繼續スル間其地租ヲ免スルモ
ノナリト雖モ有期免租地ハ土地ノ狀態ニ關セス期間滿了スルトキハ其地租ヲ
徵收スヘキモノナリ故ニ有期免租地ハ又之ヲ免租年期地ト稱ス

有期免租地左ノ如シ

(1) 新開地 新開地トハ海湖川等ノ如キ官有ノ水面ヲ埋立テ新ニ開キタル土

地ヲ云フ海潮川等ノ如キモノハ國ニ屬スルモノナルヲ以テ私人ハ隨意ニ之ヲ埋立ツルコトヲ得ス故ニ之カ埋立ヲ爲サントセハ當該官廳ノ許可ヲ得サルヘカラス而シテ埋立ノ許可ヲ出願スル者ハ之ト同時ニ成功ノ上ハ其土地ノ下付ヲ得シコトヲ出願スルヲ常トス當該官廳ニシテ若シ埋立及ヒ土地下付ノ許可ヲ與ヘタルトキハ新開地ノ所有權ハ埋立成功ト共ニ許可ヲ受ケタル者ニ歸屬シ其土地ハ民有地ト爲ルモノトス隨テ特ニ其地租ヲ免スルコトヲ規定シタル法文アルニアラサレハ之ニ對シテ地租ヲ賦課セサルヘカラス然ルニ新ニ埋立テタル土地ハ多クハ其地盤他ノ土地ニ比シ尙ホ輩固ヲ缺クモノト謂ハサルヘカラス且ツ地形上水災ヲ被ルニ傾向多キモノナルカ故ニ或ハ再々海潮川等ニ歸スルノ處ナキニアラス故ニ相當ノ年所ヲ經ルマテハ其地租ノ賦課ヲ見合セ埋立カ永久ニ亘ルヲ得ルコト確定スルニ至リテ之カ地租ヲ徵收スルコト至当ノ事トス是レ地租條例第十六條第五項カ新開地ニハ免租年期ヲ許可スヘキモノト爲シタル所以ナリ

(a) 新開免租年期ノ許可地租條例第一六條第五項 新開地ノ免租年期ハ埋立

工事ノ難易ヲ斟酌シ目的地トシテノ利用ヲ全ワスルニ至ル期間ヲ計リ五十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス地租條例第十六條第五項ハ新開免租年期ヲ許可スト云ヘルヲ以テ免租年期ハ出願ニ因リテ之ヲ許可スヘキモノトス故ニ新開地ト雖モ免租年期ヲ出願セサルモノニ對シテハ之ヲ付與スヘキ限ニ在ラス地租條例施行規則第一一條而シテ水面埋立及ヒ土地下付ノ出願ハ地方廳ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナリト雖モ免租年期ノ出願ハ之ヲ稅務管理局長ニ對シテ爲ササルヘカラス地租條例施行規則第一四條

(b) 新開免租年期ノ延長地租條例第一八條 地租條例條十八條ニ依レハ新開地ニシテ免租年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ總年期ヲ許可スルコトヲ得ルモノトス新開免租年期明ニ至リ埋立事業ノ成功ニ至ラサルモノアルコト爲ルセノニシテ免租年期ナルモノハ民有地ニ付オノミ之ヲ調ブコトヲ得ルモノナルカ故ニ新開免租年期明ニ至リ埋立事業ノ成功ニ至ラサルモノノトハ新開地ニ付テハ目的地トシテノ利用ヲ全ウスルヲ得ルニ至ラサルモノト解セサル

ヘカラス新開免租年期明ニ至リ仍ホ目的地トシテ利用ヲ全ウスル能ハサルトキハ當初付與シタル年期ハ事實ニ適セサリシモノト謂ハサルヘカラス故ニ法律ハ繼年期ナル方法ニ依リ之カ補充ヲ爲スコトヲ許ナス隨フ當初付與シタル年期ノ延長ニ付キ法律ノ定ムル方法ハ單ニ繼年期ノ一方法アルノミナルヲ以テ此方法ニ依ルノ外年期ノ延長ヲ爲スコトヲ許ナス隨フ當初付與シタル年期ハ事實ニ適セサリシトノ理由ヲ以テ事後ニ於テ年期ヲ更訂スル如キハ法律ノ認メアル所ナリ

一タヒ繼年期ヲ付與シタルモノハ更ニ繼年期ヲ許可スルコトヲ得サルヤ地租條例第十八條ハ第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リト明言スルヲ以テ第十八條ニ依リ付與シタル繼年期ノ年期明ニ至ラハ更ニ繼年期ヲ許可スルコトヲ得サルカ如シ然レトモ是レ專ラ文字ニ拘泥シテ法律ノ精神ヲ見サルノ解釋ナリト謂ハサルヘカラス第十八條カ第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リト明言シタルハ第十六條第六項ノ年期ヲ除外スルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ換言スレハ鉢下年期及ヒ新開免租年期ニ限リ其年期明ニ至リテ場合ニ

依リ更ニ繼年期ヲ許可スルコトヲ得ト謂フニ外ナラス特ニ第十八條ハ「繼年期ヲ許可ス」云フカ故ニ同條ニ依リ付與シタル年期ハ第十六條ノ年期ヲ繼續スルモノニシテ之ヲ第十六條ノ年期ト謂フモ不可ナルコトナシ故ニ其年期明ニ至リ仍ホ目的地トシテノ利用ヲ全ウスルヲ得サルトキハ更ニ繼年期ヲ與ヘ以テ法律カ新開免租年期ナルモノヲ定メタル所以ノ趣旨ヲ達スルコト法律ノ真意ナリト謂ハサルヘカラス但シ繼年期ハ二十年以内ナルヘキコト法律ノ明定スル所ナルヲ以テ前後通シテ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス故ニ既ニ付與シタル繼年期ニシテ二十年ナルトキハ當初付與シタル免租年期カ五十年ニ満タサリシノ故ヲ以テ之ト通シテ七十ニ達スルノ程度ヲ以テ更ニ繼年期ヲ與フルコトハ法律ノ認メサル所ナリ

(c) 新開免租年期ノ消滅 新開免租年期ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノナリ
1 年期ノ満了 新開地ハ年期ヲ定メテ地租ヲ免スルモノナルカ故ニ年期満了ベレハ地租ヲ課スヘキハ論ヲ俟タス

2 荒地免租年期ノ許可 新開地ニ付テハ實際ニ於テハ荒地免租年期ヲ受ク

ル者ハ殆ト之ナカルヘシト雖モ法律上ニ於テハ之ヲ受タルコトヲ得ヘキハ後ニ論スル所アルヘシ而シテ若シ荒地免租年期ヲ受ケタルトキハ新開免租年期ハ消滅スルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ土地所有者ハ現ニ新開免租年期ノ利益ヲ享有スルニ拘ラス荒地免租年期ノ許可ヲ出願スルハ新開免租年期ノ利益ヲ棄テ荒地免租年期ノ利益ヲ得ントスルノ意思ヲ表示シタルモノナルカ故ニ政府カ其願意ヲ容レテ荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ其結果トシテ新開免租年期ハ自ラ消滅セナルヲ得サルヲ以テナリ此事タルヤ法令中ニハ何等規定シタル所ナシト雖モ免租年期ヲ以テ出願ニ因リテ許可ヲ爲スヘキモノト爲シタルヨリ生スル當然ノ結果ナリト信ス

海嘯被害地ハ法律カ荒地ニ準シテ免租年期ヲ許可スルモノナルヲ以テ荒地免租年期ノ許可ニ關シ上來説シタル所ハ全然海嘯被害地免租年期ノ許可アリタル場合ニ適用セラルモノトス

(ロ) 荒地 地租條例第三條第四項ハ荒地ノ定義ヲ與ヘテ曰ク第一類地又ハ第二類地ノ山崩川欠押堀石砂入川成海成湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シ

タルモノヲ荒地ト謂フト故ニ地租條例ノ所謂荒地ナルモノハ左ノ要件ヲ具備セザルヘカラス

1 地形ノ變シタルコトヲ要ス 地形ニ變更ヲ生スルニアラサレハ荒地ト爲ラス故ニ單ニ地上ノ建物ヲ崩壊シ又ハ作物ヲ損傷シタル如キハ之ヲ以テ荒地ト爲スコト能ハス

2 地形ノ變更ハ天災ニ原因スルコトヲ要ス 天災ニ原因セサル地形ノ變更ハ荒地ヲ形成セス故ニ人爲ニ原因シテ土地ノ崩落シタル場合ノ如キハ土地カ荒地ト爲リタリト謂フコトヲ得ス

3 地形ノ變更ハ山崩川欠押堀石砂入川成海成湖水成又ハ之ト類似シタル狀態ナルコトヲ要ス 法律ハ特ニ「山崩川欠押堀石砂入川成海成湖水成等ノ如キ」ト言フヲ以テ荒地タルニ要スル地形ノ變更ハ山崩川欠押堀石砂入川成海成湖水成ナルカ又ハ之ト類似スルモノナラサルヘカラス但シ類似スルモノトハ必シモ外形ノ類似スルモノノミニ限ルニアラス外形ハ同一ナルサルモ變更前ニ於ケル土地ノ供用ヲ爲スニ適セサルニ至リタルコト山崩川欠等ト異ナル所

ナキモノハ之ヲ以テ類似シタル變形ト謂フコトヲ得ヘシ故ニ震災ニ因リ土地ニ凸起又ハ凹窪ヲ生シタル如キハ外形ハ山崩川欠等トハ同一ナラサルモ變更前ニ於ケル供用ヲ爲スニ適セサルニ至リタルコトハ之ト異ルコトナキヲ以テ之ヲ荒地ト謂フニ於テ何等ノ支障アラサルヘシ

4 第一類地又ハ第二類地ノ地形ニ變更ヲ生シタルコトヲ要ス 第一類地第ニ類地トハ有租地ノ區別ナルヲ以テ第一類地又ハ第二類地ノ地形ニ變シタルモノト云ヘハ則チ有租地ノ地形ニ變シタルモノト云フニ同シ故ニ荒地ハ有租地ニ付テノミ存スルモノニシテ有租地ニアラサル土地ハ天災ニ因リ其地形ヲ變スルニトアルモ地租條例ハ見テ以テ荒地ト爲サナルナリ果シテ然ラハ荒地ノ何物ナルカフ知ラムト欲セハ先ソ以テ有租地ノ何物タルヤ定メサルヘカラス地租ヲ課セサル土地及ヒ地租條例第四條ニ記載スル免租地ノ地租條例ニ所謂有租地ニアラサルコトハ論フ須タス地租條例第四條記載以外ノ免租地ト雖モ無期ニ地租ヲ免スル土地ニ有租地ニアラサルコトモ亦何等ノ疑フ容レス何トナレハ地租ヲ課スルノ豫期ナキ土地ヲ以テ有租地ナリト言フバ事實ノ抵

觸ナルヲ以テナリ唯年期ヲ定メテ地租ヲ免スル土地ニ至リテハ之ヲ以テ地租條例第三條ノ所謂有租地ト爲スヘキヤ否アハ頗ル疑問ナリ地租條例カ稱シテ以テ免租地ト爲ササルモノハ皆其稱シテ有租地ト爲ス所ノモノナリトセル有期免租地ハ之ヲ有租地ナリト謂ハサルヘカラスニ反シテ地租條例第三條ノ所謂有租地トハ事實地租ヲ課スル土地ヲ指スモノナリトセハ有期免租地ハ現ニ地租ヲ課セサルモノナルカ故ニ之ヲ以テ有租地ナリト謂フコト能ハス予ヲ以テ之ヲ見ルニ地租條例ハ無期免租地ニ限リテ之ヲ免租地ト稱シ而シテ免租地ニ對シテ有租地ナル稱呼ヲ用フルヲ以テ地租條例ノ所謂有租地トハ其稱シテ免租地ト爲スモノ及ヒ別法ヲ以テ地租ヲ課セス又ハ期間ヲ定メシシテ之ヲ免スト爲シタル土地ニアラサルモノハ地租條例ハ之ヲ以テ有租地ト爲スモノト謂ハサルヘカラス隨テ有期免租地ハ總テ地租條例ノ所謂有租地ナリ此見解ハ獨リ其根據ヲ法文ノ用語ニノミ置クニアラズ理論モ亦此見解ヲ助タル

モノナリ何トナレハ有期免租地ナルモノハ元來地租ヲ負擔スヘキ土地ニ對シ一定ノ期間ヲ限リ特ニ其地租ヲ免スルモノナルヲ以テ或期間事實地租ヲ徵セサルモ之カ爲メ有租地タル性質ヲ變スルモノニアラサルヲ以テナリ故ニ耕開地荒地海嘯被害地造林地ノ如キ有期免租地ニシテ其免租年期中天災ニ罹リ地形ヲ變シタルトキハ之ヲ以テ地租條例ノ所謂荒地ト爲シタルモノト謂ハサルヘカラス荒地免租年期中再ヒ荒地ト爲シタルモノニ對シ更ニ荒地免租ノ處分ヲ爲シタルコトハ地租條例制定前ヨリノ慣例ニシテ地租條例ハ此慣例ヲ廢ハルノ意ヲ以テ制定セラレタルニアラサルコトハ法文中明ニ之ヲ規定シタルモノナキヲ以テモ明ナリ而シテ事實ニ於テハ地租條例制定後ニ於テモ荒地免租年期中土地ニ對シ再ヒ荒地免租分ヲ爲シタルコトハ吾人ノ屢々目撲スル所ナリ荒地ナル有期免租地ニシテ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルトキ之ヲ以テ荒地ト爲リタルモノト謂フコトヲ得ス新聞地海嘯被害地造林地ノ如キ有期免租地セ亦同一ノ論結ヲ爲サナルヘカラス人或ハ他種條例第二十條第一項ニ於テ荒地八年期明ニ至リ原地價ニ復スルコトヲ定ムルヲ以テ原地價ナキ新聞地ノ如キ

時ニ夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲ストキハ妻ノ離縁ノ届書ニハ本文ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス然レトモ夫カ未タ離婚又ハ離縁ヲ爲ササルトキハ妻カ離縁ニ因リテ實家ニ復籍スヘキ效力ハ婚姻ノ存續ノ爲メニ其發生ヲ妨ケラレ妻ハ離縁ニ因リ其家ヲ去ルコトナキカ故ニ本文ノ限ニ在ラス
妻カ離縁ヲ爲シタル後夫カ離婚又ハ離縁ヲ爲ストキハ之ト同時ニ妻ハ實家ニ復籍ス

八 養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由 養子カ實家ニ復籍スヘキ場合ニ於テ實家カ既ニ廢絶シタルトキハ其旨ヲ記載スルヲ要ス此場合ニ在リナハ入ルヘキ家ナキカ故ニ一家ヲ創立ス但廢絶シタル實家ヲ再興スルコトヲ妨ヶス(民法第七四〇條)

裁判外ノ離縁ノ場合ニ於テ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(戸第九八條)

次ニ裁判上ノ離縁ノ届書ニハ離縁ヲ宣言シタル判決ノ原本ヲ添附スルコトヲ

要ス戸第九九條

口頭ヲ以テ離縁ノ届出ヲ爲ス場合ニ在リテハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ自ラ届出ヲ爲スコトヲ要シ代理人ヲ差出スコトヲ許サヌ戸第一〇一條代理人ヲ許サナル理由ハ前節(充)ニ述へタル所ニ同シ

口頭ヲ以テスル届出ニ付キテハ書面ニ依ル届出ノ手續ヲ準用ス(戸第一〇〇條)
(古)届出ノ受理 裁判外ノ離縁ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離縁カ其要件ヲ具備スルコト又ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス(民法第八六五條第一項)

離縁カ要件ヲ具備セス又ハ法令ニ違反スル場合ト雖戸籍吏カ其届出ヲ受理シタル離縁ハ其效力ヲ生ス民法第八六五條第二項但養親カ死亡シタル場合ヲ除ク外一方ノミヨリ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏カ之ヲ受理スルモ離縁ノ效力ヲ生スルコトナシ
裁判上ノ離縁ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離縁ヲ宣言シタル判決カ確定シタルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ不當ニ届出ヲ受理セサルトキハ届出人ハ抗告ヲ爲スヲ得ルコトハ前節(古)ニ述ヘタル所ニ同シ

第七節 婚姻ニ關スル届出

(古)總論 本節ニ於テハ婚姻ニ關スル届出即チ戸籍法第四章第七節ノ規定ヲ説明スヘシ

婚姻ニ關スル實體上ノ要件ハ左ノ如シ

第一 法定ノ推定家督相繼人ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルコトヲ得ス(民法第七四四條第一項)

第二 家族ハ戸主ノ同意アルニアラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七五〇條第一項)

第三 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ランクトスキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七四一條第一項)

第四 婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスル者ハ戸主ニアラサルコトヲ要ス(民法第七五四條第一項)

第五 陸海軍人カ婚姻ヲ爲スニハ勅許又ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルヲ要シ(陸海軍人結婚條例華族カ婚姻ヲ爲スニハ宮内大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(華族令)

第六 男ハ満十七年、女ハ満十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得(民法第七五六條)

第七 配偶者アル者ハ重子ヲ婚姻ヲ爲スコトヲ得(民法第七五六條)

第八 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六箇月ヲ経過シタル後ニアラサレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ後ハ前項ノ期間内ト雖再婚ヲ爲スコトヲ妨ケス(民法第七七條)

第九 薙通ニ因リテ離縁又ハ刑ノ宣言ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七六八條)

第十 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ此限ニ在ラス(民法第七六九條)

第十一 直傍姻族ノ間ニ在リテハ姻族關係カ止ミタル後(民法第七二九條)ト雖婚姻ヲ爲スコトヲ得ス(民法第七七〇條)

第十二 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ親族關係カ止ミタル後(民法第七三〇條)ト雖婚姻ヲ爲スコトヲ得ス民法第七七一條)

第十三 滿三十年ニ達セサル男又ハ満二十五年ニ達セサル女カ婚姻ヲ爲スニ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス父母ノ一方カ、知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ニ限り其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス民法第七七二條)

第十四 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ

得ヲ婚姻ヲ爲スコトヲ得民法第七七三條)

第十五 禁治產者カ婚姻ヲ爲スニハ後見人ノ同意ヲ要セス(民法第七七四條)

第十六 婚姻ヲ爲ス意思ハ戸籍吏ニ對スル届出ニ依リテ之ヲ表示スルコトヲ要ス即チ要式ノ意思表示ナリ其届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス(民法第七七五條)

(注意) 外國ニ在ル日本人間ノ婚姻ニ付キテハ民法第七百七十七條ニ特別ノ規定アリ

戸籍吏カ婚姻ノ届出ヲ受理シタルトキハ其時ヨリ婚姻ノ效力ヲ生ス(民法第七五條)

婚姻ノ效力シテ當事者ハ夫タリ妻タル身分ヲ取得シ妻ハ夫ノ家ニ入ル但入夫婚姻及ヒ培養子縁組ノ場合ニ在リテハ妻バ夫ノ家ニ入ラスシテ夫カ妻ノ家ニ入ル(民法第七七八八條)尙ホ婚姻ノ效力ニ付キテハ民法第七百八十九條乃至第八百七條等ヲ參照スヘシ

三 届出ノ手續 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコ

トヲ要ス但入夫婚姻及ヒ培養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一〇四條)

婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一〇二條)

一 當事者ノ氏名出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 當事者ノ父母ノ氏名職業及ヒ本籍地

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地

四 入夫婚姻又ハ培養子縁組ナルトキハ其旨 通常ノ場合ニハ妻ハ夫ノ家ニ

入ルモ入夫又ハ培養子ハ妻ノ家ニ入ルヘキカ故ナリ

五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨 民法第七百三

十六條ニハ「女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト爲ル但當事者カ婚姻ノ當時反対ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラストアリ本號ハ此反対ノ意思表示ノ方式ヲ定メタルモノナリ

六 婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ

年月日 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス(民法第八三六條第一項故ニ婚姻ヲ爲ス當事者ノ間ニ既ニ庶子アルトキハ本號ニ定メタル事項ヲ記載セシムルナリ)

七 當事者ノ一方カ婚姻又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前婚姻ノ戸主又ハ養親ノ氏名職業及ヒ本籍地
婚姻ニ付キ戸主父兄後見人親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(戸第一〇三條)
以上ノ外軍人華族カ婚姻ヲ爲ス場合ニ在リテハ當該官廳ノ許可書ノ體本ヲ添附スルヲ要スルコト等本章第一節通則ニ掲ケタル要件ヲモ具備セナルヘカラナルコトハ言フヲ
口頭ヲ以テ婚姻ノ届出ヲ爲スニハ届出人自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコトヲ要シ代理人ヲ差出スコトヲ許サス(戸第一〇八條代理人ヲ禁スル理由ハ前第五節充ニ述ヘタル所ニ同シ)

口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ付クハ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ準用ス(戸第一〇七條)

(注)届出ノ受理 戸籍吏ハ婚姻カ其要件ヲ具備セルコト及ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス但前(注)ノ第二又ハ第三ノ要件ノミヲ具備セサル場合ニ於テ戸籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ラス當事者カ其届出ヲ爲サントスルトキハ此限ニ在ラス(民法第七七六條)

戸籍吏カ不當ニ届出ヲ受理セサルトキハ届出人ハ抗告ヲ爲スコトヲ得
(注)婚姻カ無效ナルトキ又ハ取消サレタルトキ 婚姻カ要件ヲ具備セス又ハ法令ニ違反スル場合ト雖戸籍吏カ届出ヲ受理スレハ婚姻ノ效力ヲ生ス婚姻カ無効ナルハ左ノ二場合ニ限ル(民法第七七八條)

一人達其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

二 當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲サナルトキ 前第五節(注)ニ説明シタル所ニ同シ

婚姻カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキト雖當事者自ラ之ヲ取消スコトヲ得ス婚姻ハ民法第七百八十條以下七條ニ掲ケタル場合ニ限リ裁判所ノ判決ヲ以テノミ之ヲ取消スコトヲ得民法第七七九條)

戸籍吏カ婚姻ノ届出ヲ受理シ其身分登記ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻カ無効ナルトキハ其届出人ノ全員ヨリ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス戸第一〇五條若シ届出人ノ全員カ登記ノ取消ヲ申請スル事ニ付キ一致セサルトキハ婚姻無効ノ訴ヲ提起シ次ノ手續ヲ爲スノ外ナシ婚姻ノ無効又ハ取消ノ判決カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ勝本ヲ提出シ婚姻ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(月第一〇六條此期間ヲ徒過シタルトキハ過料ニ處セラル)

第八節 離婚ニ關スル届出

(一) 総論 本節ニ於テハ離婚ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第四章第八節ノ規定ヲ説明スヘシ

離婚ニハ裁判上ノ離婚ト裁判外ノ離婚協議上ノ離婚トノ二種アリ

裁判外ノ離婚ヲ爲スニ付キテノ要件ハ左ノ如シ

第一 夫婦其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得(民法第八〇八條)

第二 満二十五年ニ達セサル者カ裁判外ノ離婚ヲ爲スニハ婚姻前ヨリ其家ニ在リタル者ハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ婚姻ニ因リテ他家ヨリ入リタル者ハ其他家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス父母ノ一方又ハ雙方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ及ヒ繼父母又ハ嫡母カ同意セサルトキニ付キテハ前第六節(三)ノ第二ニ述ヘタル所ニ同シ民法第八〇九條

第三 禁治產者カ離婚ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(民法第八一〇條ニ依リ第七七四條準用)

第四 離婚ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ヲ以テ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス(民法第八一〇條ニ依リ第七七五條準用裁判外ノ離婚ハ此届出ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得ル所ノ

要式ノ意思表示ナリ

次ニ裁判上ノ離婚ニ付キヲノ要件ハ左ノ如シ

第一 離婚ノ訴ハ民法第八百十三條以下ニ掲タル事由アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第二 離婚ノ訴ハ夫婦ノ一方ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得(民法第八一三條)

離婚ノ訴ノ手續ニ付キテハ人事訴訟手續法第一章ノ規定ヲ參照スヘシ裁判所カ離婚ノ請求ヲ正當ト認ムルトキハ判決ヲ以テ離婚ヲ宣言ス

裁判外ノ離婚ハ戸籍吏カ届出ヲ受理スルニ因リテ效力ヲ生シ(民法第八一〇條ニ依リ)第七七五條準用裁判上ノ離婚ハ判決ノ確定ニ因リテ效力ヲ生ス

(注意) 離婚ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ生ス(人事訴訟法手續法第一八條)

(合) 届出ノ手續 裁判外ノ離婚ハ當事者雙方ヨリ成年ノ證人二人以上ト共ニ届出ツルコトヲ要シ(民法第八一〇條裁判上ノ離婚ハ其訴ヲ提起シタル者ヨリ届出ツルコトヲ要ス(戸第一一一條離婚ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キヲ得)

ハ別段ノ規定ナキカ故ニ通則ノ規定ニ從フコトヲ要ス(四)參照

裁判外ノ離婚ノ届出ハ離婚ノ效力ヲ生セシムル爲メニ之ヲ爲スニ反シ裁判上ノ離婚ノ届出ハ判決ノ確定ニ因リ既ニ效力ヲ生シタル事項ノ届出ナリ裁判上ノ離婚ノ届出ハ判決確定ノ日ヨリ十日内ニ戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ届出ツルコトヲ要シ(戸第一一一條此期間ヲ怠ルトキハ過料ニ處セラル)裁判上ノ離婚及ヒ裁判外ノ離婚ハ書面届書又ハ口頭ヲ以テ之ヲ届出ツルコトヲ得

離婚ノ届書ニハ式ニ掲タル諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(第一〇九條)

一 當事者ノ氏名職業及ヒ本籍地
二 當事者ノ父母ノ氏名職業及ヒ本籍地
三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地
四 婚姻ノ年月日
五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六 當事者カ離婚ニ因リ其家ヲ去ルヘキトキハ其復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、戸籍法 庫分登記 庫分ニ關スル届出 離婚ニ關スル届出

職業及ヒ本籍地　婚姻ニ因リテ他家ヨリ入りタル者ハ離婚ノ場合ニ實家ニ復籍スルカ故ナリ尙ホ前第六節(三)ノ七ノ(注意ヲ参照スヘシ)

七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由　民法第七百四十條ヲ参照ス
ヘシ

裁判外ノ離婚ノ場合ニ於テ父母後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スルトキ(尤)ノ第二參照ハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添へ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシムルヲ要ス(戸第一一〇條)

裁判上ノ離婚ノ届書ニハ離婚ヲ宣言シタル判決ノ勝本ヲ添附スルコトヲ要ス

(戸第一一一條)

以上ノ外届書ニ届出人ノ署名捺印ヲ要スルコト(成年ノ二人以上ノ證人ハ證人タルコトヲモ記載スルヲ要ス)等ニ付キテハ本章第一節通則ニ從フコトヲ要ス口頭ヲ以テ離婚ノ届出ヲ爲スニハ届出人自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコトヲ要シ代理人ヲ差出スヲ許サス(第一一三條)

口頭ヲ以テスル届出ノ手續ニ付キテハ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ準用スヘ

キモノトス(戸第一一二條)

(六)届出ノ受理　裁判外ノ離婚ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離婚ヲ前(元)ニ掲ケタル要件ヲ具備スルコト及ヒ戸籍法其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス(民法第八一一條第一項然レトモ離婚カ要件ヲ具備セス又ハ法令ニ違反シタル場合ト雖戸籍吏カ其届出ヲ受理シタルトキハ離婚ノ效力ヲ生ス民法第八一一條第二項)
裁判上ノ離婚ノ場合ニ在リテハ戸籍吏ハ離婚ヲ宣言シタル判決カ確定シタルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルコトヲ得ス
戸籍吏カ不當ニ届出ヲ受理セサルトキハ届出人ハ其戸籍役場ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得戸條二〇三條

第九節 後見ニ關スル届出

(一)總論　本節ニ於テハ後見ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第四章第九節ノ規定ヲ説明スヘシ

戸籍法　身分二編スル届出　後見ニ關スル届出

後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス(民法第九〇〇條)

第一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ (甲) 未成年者ノ家ニ其父母ナキトキ(乙) 親權ヲ行フ父又ハ母アリタルモ親權喪失ノ宣告民法第八九六條ヲ受ケタル爲メ親權ヲ行フ者ナキニ至リタルトキヲ謂フ

第二 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ (甲) 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理權喪失ノ宣告ヲ受ケタル爲メ管理權ヲ行フ者ナキニ至リタルトキ(民法第八九七條)(乙) 親權ヲ行フ母カ管理權ヲ辭シタルトキ(民法第八九九條ヲ謂フ)

第三 禁治產ノ宣告アリタルトキ 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ對シ禁治產ノ宣告アリタルトキ(民法第七條ヲ謂フ)

後見カ開始シタルトキハ其未成年者又ハ禁治產者ノ爲メニ一人ノ後見人アルコトヲ必要トス(民法第九〇六條)後見人ノ權利及ヒ權限ニ付キテハ民法第一編第一章第二節及ヒ同法第四編第六章第三節等ヲ參照スヘシ

後見人ト爲ルコトヲ後見人ノ就職ト謂フ後見人ノ就職ニ四種アリ

第一 法律ノ規定ニ因ル就職 民法第九百二條又ハ第九百三條ノ規定ニ因リ當然後見人ト爲ルコト謂フ

第二 未成年者ニ對シ最後ニ親權ヲ行フ者ノ指定ニ因ル就職 未成年者ニ對シ最後ニ親權ヲ行フ者ハ民法第九百一條ニ從ヒ遺言ヲ以テ其未成年者ノ後見人ヲ指定スルコトヲ得此場合ニ於テ遺言者カ死亡スルトキハ指定セラレタル者ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ後見人ト爲ル

第三 親族會ノ選任ニ因ル就職 前第一又ハ第二ニ因ル法定又ハ指定ノ後見人ナキトキハ後見人ハ未成年者又ハ禁治產者ノ親族會之ヲ選任ス(民法第九〇四條)

第四 裁判所ノ選任ニ因ル就職 親族會カ後見人ヲ選任スヘキ場合ニ於テ選任ノ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ未成年者又ハ禁治產者ノ住所地ノ區裁判所ハ親族會員ノ申請ニ因リ後見人ヲ選任ス(民法第九五二條)非認事件手續法第九六條

之ヲ要スルニ後見人ハ法律ノ指定遺言者ノ死亡又ハ親族會若クハ裁判所ノ選

任ニ因リ就職スルモノニシテ後見人ト爲ルヘキ者カ就職ヲ承諾スルコトニ因
リ後見人ト爲ルニアラス

後見終了前ニ後見人カ死亡シ又ハ辭任其他ノ事由ニ因リ其資格ヲ喪失シ(民法
第九〇七條、第九〇八條タルトキハ更ニ後見人ヲ設タルコトヲ要ス)
未成年者ノ後見ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

第一 未成年者カ成年ニ達シタルトキ

第二 未成年者カ死亡シタルトキ

第三 親權ヲ行フ父又ハ母アルニ至リタルトキ 親權喪失ノ宣告ヲ受ケタル
父又ハ母ニ對シ其宣告ノ取消アリタルトキ(民法第八九八條若クハ他家ニ在
リタル父又ハ母カ未成年者ノ家ニ入リタルトキノ如キ是ナリ)

第四 管理權喪失ノ宣告ヲ受ケタル親權者ニ對シ其宣告ノ取消アリタルトキ
民法第八百九十八條ヲ参照スヘシ

禁治產者ノ後見ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

第一 禁治產者カ死亡シタルトキ

第二 禁治產ノ宣告ヲ取消サレタルトキ(民法第一〇條)

後見カ終了シタルトキハ後見人ハ當然其資格ヲ失フ

後見ニ關スル届出ニ三アリ後見開始ノ届出、後見人更迭ノ届出、及ヒ後見人ノ任
務終了ノ届出はナリ以上三種ノ届出ハ何レモ既ニ發生シタル事實ヲ公示スル
爲メノ身分登記ヲ爲ス爲メ戸籍法上ノ義務トシテ爲ナシムル届出ナリ

(△)後見開始ノ届出

後見開始シ後見人カ就職シタルトキハ其後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ後見
開始ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス(第一一四條)

後見開始ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要(同上)

一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業本籍地及ヒ住所

二 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地 被後見人トハ後見ニ付セ
ラレタル未成年者又ハ禁治產者ヲ謂フ

三 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四 後見人開始ノ原因及ヒ年月日 後見開始ノ原因カ禁治產ノ宣告ナルトキ

ハ後見開始ノ年月日ハ其宣告アリタル日ニアラスシテ其宣告カ效力ヲ生シタル日ナリ(人事訴訟手續法第五二條)

五 後見人就職ノ年月日 後見人就職ノ年月日トハ後見人ト爲リタル日ヲ謂フ後見人ト爲リタルコトヲ知リタル日又ハ後見ノ事務ニ著手シタル日ヲ謂フニアラス後見人就職ノ年月日ト後見開始ノ年月日トハ同シキコトアリ異ナルコトアリ

(注意) 親權ニ服スル未成年者ニ對シ禁治產ノ宣告アルトキハ親權ヲ行フ者ハ當然後見人ト爲ル民法第九〇二條此等ノ場合ニ在リテハ親權ヲ行フ者ハ禁治產ノ宣告カ效力ヲ生スルト同時ニ後見人ト爲ルカ故ニ後見開始ノ年月日ト後見人就職ノ年月日トハ相同シ

之ニ反シテ後見開始後親族會カ後見人ヲ還任シタルトキハ後見人就職ノ日ハ後見開始ノ日ニ違ル

(益) 後見人更迭ノ届出 後見開始後其終了前ニ後見人カ其資格ヲ喪失シ他人者カ新ニ後見人ト爲リタルトキハ新任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ後

見人更迭ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一一五條)

後見人更迭ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

一 前任後見人ノ氏名

二 新任後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業本籍地及ヒ住所

三 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

四 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

五 後見開始ノ原因及ヒ年月日

六 新任後見人就職ノ年月日

(益) 後見人ノ任務終了ノ届出 後見人ノ任務ノ終了トハ後見人タル資格ノ喪失ヲ謂フ後見人ノ任務ハ左ノ場合ニ於テ終了ス

第一 後見ノ終了

第二 後見ノ終了前ニ後見人カ死亡、辭任其他ノ事由ニ因リ其資格ヲ喪失シタルトキ 此場合ニ在リテハ未タ終了セサルカ故ニ新ニ後見人ヲ設クルコトヲ要ス隨テ前任ノ後見人又ハ後見監督人ハ前任後見人ノ任務終了ノ

届出ヲ爲スコトヲ要シ後任ノ後見人ハ前(凸)ニ説明シタル後見人更迭ノ届出
ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

後見人ノ任務終了ノ原因カ其死亡ナルトキハ後見監督人民法第九一〇條以下
ハ後見人死亡ノ日ヨリ十日内ニ後見人任務終了ノ届出ヲ爲スコトヲ要シ後見
人ノ任務終了ノ原因カ他ノ事由ナルトキハ後見人タリシ者ハ任務終了ノ日ヨ
リ十日内ニ其任務終了ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一一七條)

後見人任務終了ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

一 被後見人ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

二 任務カ終了シタル後見人ノ就職ノ年月日

三 任務終了ノ原因及ヒ年月日

(公通則) 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ
爲スコトヲ要ス(戸第一一八條)

前(凸)又ハ(凸)ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ就職シタル後見人カ遺言ヲ以テ指定セラ
シタル者ナキトキハ届書ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要シ親

族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ届書ニ其選任ニ關スル證書ノ謄本ヲ
添フルコトヲ要ス(戸第一一六條)次ニ裁判所カ選任シタル後見人ニ付テハ別段
ノ規定ナシト雖届書ニ其選任ノ裁判ノ謄本ヲ添フルヲ相當トス
後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ代理人トシテ届出フルニアラス後見人又ハ後
見監督人ノ地位ニ在ル者又ハ在リタル者カ自己ノ戸籍法上ノ義務トシテ届出
ヅヘキモノトス

後見ニ關スル届出ハ就職又ハ任務終了ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヲ要スルコ
トハ既ニ述へタリ然ルニ届出義務者カ十日内ニ就職又ハ任務終了ノ事實ヲ知
ルヲ得サルコトナキニアラス戸籍法カ届出義務者カ就職又ハ任務終了ノ事實
ヲ知リタル日ヲ以テ届出期間ノ始期ト爲ササリシハ責諭ニ失ス
(凸)後見人ノ職務ヲ行フ者 後見人ノ職務ヲ行フ者トハ後見人ニアラスシテ
後見人ト同一ナル民法上ノ権利義務及ヒ權限ヲ有スル者ヲ謂フ後見人ノ職務
ヲ行フ者アルトキハ後見人ヲ置カス

後見人ノ職務ヲ行フ者ハ左ノ如シ

第一 妻カ未成年者ナルトキハ成年ノ夫ハ後見人ノ職務ヲ行フ(民法第七九一條)

第二 公設ノ教育所ニ在ル未成年ノ孤兒等ニ付キテハ其所長後見人ノ職務ヲ行ヒ私設ノ教育所ニ在ル未成年ノ孤兒等ニ付キテハ其教育所所在地ノ地方長官ニ於テ後見人ノ職務ヲ行フ者ヲ指定ス(明治三十三年法律第五十一號及ヒ同年内務省令第十一號)

戸籍法ニハ後見ニ關スル届出ノ規定ハ後見人ノ職務ヲ行フ者ニ付キテモ亦之ヲ適用スル旨ノ規定ナシ故ニ後見人ノ職務ヲ行フ者ハ本節ニ掲ケタル各種ノ届出ヲ爲スコトヲ要セサルモノトス

第十節 隠居ニ關スル届出

(六)總論 本節ニ於テハ隠居ニ關スル届出即チ戸籍法第四章第十節ノ規定ヲ説明スヘシ

隠居トハ戸主タル身分ヲ喪失スルコトヲノミ目的トスル戸主ノ意思表示ヲ謂

フ戸主ハ左ニ掲タル條件ノ具備スルニアラサレハ隠居ヲ爲スコトヲ得ス

第一 満六十年以上ナルコト但女戸主ニ在リテハ年齢ノ制限ナシ

第二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認(民法第一〇二三條)ヲ爲スコト

第三 有夫ノ女戸主ニ在リテハ其夫ノ同意ヲ得ルコト但夫ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其同意ヲ拒ムコトヲ得ス

然レトモ戸主カ疾病本家ノ相續若クハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハナルトキ又ハ戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前ニ掲ケタル條件ヲ具備セサル場合ト雖裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲スコトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラナルトキハ豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ指定シ其者ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス(以上ニ付キテハ民法第七五二條乃至第七五五條第九七九條非訛事件手續法第九〇條戸籍法第一四〇條ヲ參照スヘシ)

隠居ハ隠居者及其家督相續人ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ

生スルコトハ民法第七百五十七條ノ規定スル所ナリ蓋シ隠居者ハ此届出ニ然リテ隠居ヲ爲スノ意思ヲ表示スルコトヲ要シ家督相續人ハ之ニ依リテ相續ノ承認ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要スルコトト爲シタルナリ
然ルニ既ニ述ヘタル如ク法定ノ推定家督相續人アル戸主カ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ在リテハ其法定ノ推定家督相續人ノ承認ヲ得ルコトヲ要件トセサルカ故ニ此場合ニ限リ隠居者ノミヨリ届出ヲ爲セハ隠居ノ效力ヲ生スト解釋スルヲ正シトス

(注意) (イ) 若シ此場合ニ於テモ隠居者ハ家督相続人ト共ニ届出ヲ爲スコトヲ要ストスレハ家督相續人カ共ニ届出ヲ爲スコトヲ欲セサルカ如キ場合ニ在リテハ其承認ヲ得ルコトハ隠居ノ要件ニアラサルニ拘ラス隠居者ハ之カ爲メ隠居ヲ爲スコト能ハナルコトト爲ル

(ロ) 法定ノ推定家督相續人ハ相續ノ拠棄ヲ爲スコトヲ得ス民法第一〇二〇條故ニ承認ヲ得ルコトヲ要件トセス

戸籍吏カ隠居ノ届出ヲ受理シタルトキハ隠居カ前ニ掲ケタル要件ヲ具備セラ

ル場合ト雖其效力ヲ生ス(民法第七五七條第七五八條)

戸籍吏カ隠居ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ隠居カ前ニ掲ケタル要件ヲ具備セサルトキハ民法第七百五十九條ニ掲ケタル者ハ隠居取消ノ訴ヲ規定スルコトヲ得ヘタ隠居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隠居ノ届出ヲ爲シタルトキハ民法第七百五十九條ニ掲ケタル者ハ隠居取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキモノトス此訴ノ手續ニ付キテハ人事訴訟手續法第二章ヲ參照スヘシ
隠居ハ裁判所ノ判決ニ因ル外取消サルルコトナシ

(ア) 隠居ノ届出 隠居ハ隠居ヲ爲サント欲スル者及ヒ其家督相續人ヨリ之ヲ届出ナルコトヲ要ス但家督相續人ノ承認ヲ得ルコトヲ要件トセサル場合ニ在リテハ隠居ヲ爲サント欲スル者ノミヲ以テ届出人トス

(注意) 法定ノ推定家督相續人ナキ者カ裁判所ノ許可ヲ得且ヅ豫メ家督相續人ト爲ルヘキ者ヲ指定シ其者ノ承認ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ在リテハ指定ノ家督相續人ハ完全ノ能力者タルコトヲ必要トセス然ルニ無能力者ノ法定代理人ハ之ニ代リテ相續ヲ承認シ又ハ拠棄スルコトヲ得ル者ナルカ故ニ若

シ 指定ノ家督相續人カ無能力者ナルトキハ其法定代理人ハ之ニ代リテ承認ヲ爲スコトヲ妨ケス而シテ法定代理人人カ代リテ承認ヲ爲ス場合ニ在リテハ其者ハ無能力者ノ法定代理人人タル資格ニ於テ隠居者ト共ニ届出ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

隠居ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一一九條)

一 隠居者ノ氏名族稱出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 家督相續人ノ名出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

三 隠居ノ原因 民法第七百五十三條ニ掲ケタル事由ニ因リタル隠居ニ在

リテハ其旨ヲ記載スルヲ要スルカ如キ是ナリ

裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ許可ノ裁判ノ膳

本ヲ添フルコトヲ要ス(戸第一二〇條)

家督相續人ノ承認ヲ得ルコトヲ要スル場合ニ在リテハ届出人ハ届出ニ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添へ又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(戸第一一二條第一項)

(注意)一家督相續人ノ單純承認又ハ承認ヲ得ルコトヲ要スル場合ニ在リテハ隠居ハ隠居者及ヒ家督相續人ヨリ届出ツルコトヲ要スルコトハ既ニ述ヘタリ然ルニ家督相續人カ單ニ届出人トシテ届書ニ署名捺印スルノミニテハ果シテ單純承認又ハ承認ヲ爲ス意思アリタルヤ否ヤ明確ナラサル嫌アルカ故ニ家督相續人ハ届出人トシテ署名捺印スル外尙ホ單純承認若クハ承認ノ證書ヲ添へ又ハ其旨ヲ届書ニ附記スルコトヲ要スルコトト爲シタルモノナルヘシ

次ニ有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲ス場合ニ在リテハ届出人ハ届書ニ隠居者ノ夫ノ同意ノ證書ヲ添へ又ハ夫ヲシテ届書ニ其旨・附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要スルモノトス(戸第一一二條第二項)

隠居ノ届出ハ隠居ノ效力ヲ生セシムル爲メニ爲ス届出ナリ既ニ效力ヲ生シタル隠居ニ付キ之ヲ公示スル爲メ戸籍法上ノ義務トシテ爲サシムル届出ニアラス戸主カ隠居ヲ爲サスシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戸籍吏カ婚姻ノ届出ヲ受理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隠居ヲ爲シタルモノトス

ノト看做サル民法第七五四條第二項此場合ニ在リテハ隠居ノ届出ヲ爲ナサルモ婚姻ノ届出ノ受理ニ因リ隠居ノ届出ヲ爲シタルト同一ナル民法上ノ效果ヲ生スルモノトス

婚姻ノ届出ノ受理ニ因リ隠居ノ届出ヲ爲シタルト同一ナル民法上ノ效果ヲ生シタル場合ニ在リテハ更ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要セス
(七)隠居カ取消サレタルトキ 戸籍吏カ隠居ノ届出ヲ受理シテ其登記ヲ爲シタル後裁判所カ隠居ヲ取消ス判決ヲ言渡シ其判決確定シタル場合ニ在リテ其訴ヲ提起シタル者カ隠居者其他ノ私人ナルトキハ其者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ原本ヲ提出シテ隠居登記ノ取消ヲ戸籍吏ニ申請スルコトヲ要シ其訴ヲ提起シタル者カ檢事ナルトキハ檢事ハ前同一ノ條件ニ從ヒ隠居ノ登記ノ取消ヲ戸籍吏ニ請求スルコトヲ要ス(戸第一一二二條)

第十一節 失踪ニ關スル届出

(七)總論 本節ニ於テハ失踪ニ關スル届出即チ戸籍法第四章第十一節ノ規定

ヲ説明スヘシ

不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得戰地ニ臨ミタル者沈没シタル船舶中ニ在リタル者其他死亡ノ原因タルベキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰争ノ止ミタル後船舶ノ沈没シタル後又ハ其他ノ危難ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキ亦同シ(民法第三〇條)

失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ右ニ示シタル期間滿了ノ時ニ死亡シタルモノト看做ナル(民法第三一條)

失踪ノ宣告カ不當ナルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要シ(人事訴訟手續法第七八條第七〇條民事訴訟法第七七四條失踪者カ生存スルコト又ハ前ニ示シタル期間満了ノ時ト異ナリタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス(民法第三二條)

失踪ノ宣告及ヒ其取消ハ判決ヲ以テ之ヲ爲ス失踪ヲ宣告シタル判決ニ對シテ

ハ上訴ヲ許ササルカ故ニ其判決ハ言渡ト同時ニ確定ス之ニ反シテ失踪ノ宣告ヲ取消ス判決ニ對シテハ上訴ヲ許スカ故ニ其判決ハ上訴期間ノ徒過等民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ確定ス

失踪ノ宣告及ヒ其取消ニ關スル訴訟手續ニ付キテハ人事訴訟手續法第四章ノ規定ヲ參照スヘシ

(参)届出ノ手續 失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ判決ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一一二三條)

一 失踪者ノ氏名出生年月日職業及ヒ本籍地

二 失踪ノ宣告アリタル年月日

三 失踪者カ家族タルトキハ戸主ノ氏名族稱及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

失踪ノ宣告ノ取消アリタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ謄本ヲ提出シテ失踪ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第一一二四條)

第十二節 死亡ニ關スル届出

(参)總論 本節ニ於テハ死亡ノ届出及ヒ其報告等ニ關スル手續即チ戸籍法第四章第十二節ノ規定ヲ説明スヘシ

死亡ノ報告ヲ爲スベキ場合等ニ付キテハ後ノ^(五)ニ之ヲ説明スヘシ此等ノ場合ニ在リテハ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス其他ノ場合ニ在リテハ届出義務者ハ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

死亡トハ出生ニ因リテ人格ヲ得タル者カ其生命ヲ失フヲ謂フ隨テ死胎分娩ノ如キ場合ニハ死亡ノ届出ヲ爲スベキ限ニ在ラス
(参)死亡ノ届出 死亡者アリタルトキハ左ニ掲タル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ但同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル(戸第一一二六條)

第一 死亡者ノ戸主

第二 死亡者ト住所又ハ居所ヲ同シウシタル者
 第三 死亡者アリタル家屋又ハ土地ノ所有者若クハ管理人
 第一ノ順位ニ在ル者ナキトキ又ハ其者カ心神喪失等ノ事由ニ因リ届出ヲ爲ス
 コト能ハサルトキハ第二ノ順位ニ在ル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要シ第一及ヒ
 第二ノ順位ニ在ル者ナキトキ又ハ此等ノ者カ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ
 第三ノ順位ニ在ル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス
 病院監獄其他ノ公設所ニ死亡者アリタル場合ニ於テ前ニ掲ケタル届出義務者ナキ
 ナキトキ又ハ此等ノ者カ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院監獄其他ノ公設
 所ノ長若クハ管理人ハ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ戸籍法第一二八條ニ依リ
 テ同法第七四條準用)

(注意) 其餘ノ場所ニ死亡アリタル場合ニ於テ前ニ掲ケタル届出義務者ナキ
 トキ又ハ此等ノ者カ届出ヲ爲スコト能ハサルトキニ關シ戸籍法ニ別段ノ規定ナキ
 定ナキハ不備ナリ總テ此場合ニ在リテハ死亡者ノ本籍分明ナラス且ツ何人

タルコトヲ認識スルコト能ハサルモノトシテ警察官ヨリ死亡ノ報告後ノ(蓋)
 参照ヲ爲スノ外ナカルヘシ

死亡者アリタルトキハ届出義務者ハ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ死亡ノ
 届出ヲ爲スコトヲ要ス但此届出期間ハ傳染病豫防其地衛生ノ爲メ特別ノ必要
 アルトキニ限り行政官廳ノ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得(戸第一二五條)
 死亡ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(同上)

一 死亡者ノ氏名出生ノ年月日男女ノ別及ヒ本籍地
 二 死亡ノ年月日時及ヒ場所

三 死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名族稱及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄
 死亡ノ届出ニハ診斷書又ハ検案書ノ原本若クハ檢視調書ノ原本ヲ添フルコト
 フ要ス同上診斷書及ヒ検案書ハ何レモ醫師ノ作成シタル書面ニシテ死亡前ヨリ
 リ診察シタル醫師カ作成シタルトキハ之ヲ診斷書ト謂ヒ死亡後始メテ診察シ
 タル醫師カ作成シタルトキハ之ヲ検案書ト謂フ次ニ検視調書トハ變死ノ如キ
 場合ニ鑑察官其他ノ者カ臨場シテ作成シタル書面ヲ謂フ

死亡ノ届出ハ死亡地又ハ死亡者ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一二七條)

汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ死亡者アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付キテハ著地ヲ以テ死亡地ト看做ス(戸籍法第一二八條ニ依リ第七〇條準用)
(壹)死亡ノ報告等 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滞ナク前(齒)ノ一乃至三ニ掲ケタル諸件ヲ具シ監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス在監中死刑ノ執行以外ノ事由ニ因リ死亡シタル者アリテ死體ノ引取人ナキトキ亦同シ此等ノ場合ニ於テハ報告書ニ醫師ノ診斷書又ハ検案書ヲ添フルコトヲ要ス(戸第一二九條)

(注) 在監中トハ未決勾留中ノ者ト既決囚徒トヲ包含ス
 航海日誌ヲ備ヘタル船舶ノ航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ヒタル證人ノ前(齒)ノ一乃至三ニ掲ケタル諸伴ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名捺印シ且ツ證人ノ出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一三〇條第一項)

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要シ同條第二項船舶カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス(同條第三項)

船舶ノ難破ニ因リテ乗組員及び乗客ノ全部又ハ一部カ死亡シタルトキハ其難破ノ取調ヲ爲シタル官吏又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ戸籍地ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一三一條)

死亡者ノ本籍分明ナラス且ツ其何人タルコトヲ認識スルコト能ヘサルトキハ警察官ハ檢視調書ヲ作り遲滞ナク之ヲ其地ノ戸籍吏ニ報告スルコトヲ要ス(戸第一三二條第一項)

前項ノ報告ヲ爲シタル後死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ其何人タルコトヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滞ナク前ニ報告ヲ受ケタル

戸籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス(同條第二項)
 前(古)ニ掲ケタル第一又ハ第二ノ順位ニ在ル届出義務者カ前項ノ事實ヲ知リタ
 ルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書
 又ハ検察書ニ代ヘ警察官ノ檢視調査ノ證本ヲ添フルコトヲ得(戸第132條第
 三項)

第十三節 家督相續ニ關スル届出

(六)總論 本節ニ於テハ家督相續ニ關スル届出即チ戸籍法第四章第十三節ノ
 規定ヲ説明スヘシ

家督相續ハ左ノ事由ニ因リテ開始ス(民法第九六四條)

- 一 戸主ノ死亡、隠居又ハ國籍喪失
- 二 戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ
- 三 女戸主ノ入夫、婚姻但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキ
 ハ此限ニ在ラス(民法第七三六條)又ハ入夫ノ離婚

家督相續開始ノ原因カ入夫婚姻ナルトキハ入夫ハ當然戸主ト爲リ(民法第七三
 六條)其他ノ事由ナル場合ニ於テ前戸主ニ其直系卑屬タル法定ノ推定家督相續
 人(民法第九七〇條乃至第九七四條)アルトキハ其者ハ當然戸主ト爲ル

(注意)茲ニ戸主ト爲ルト云フハ戸主タル身分ヲ取得スルヲ謂フ

入夫又ハ法定ノ推定家督相續人ハ家督相續ノ開始ト同時ニ戸主ト爲ルト雖
 財產關係ニ付キテハ入夫又ハ法定ノ推定家督相續人カ自己ノ爲メニ相續
 ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三箇月内ニ單純若クハ限定ノ承認ヲ
 爲シ民法第一〇一七條以下若クハ民法第千二十四條ノ規定ニ依リ單純承認
 ヲ爲シタルモノト看做サルルニ至ルマテハ無限ニ前戸主ノ權利義務ヲ承繼
 スルヤ將タ相續ニ因リテ得タル財產ノ限度ニ於テノミ前戸主ノ義務ヲ承繼
 スルヤ(民法第一〇二三條第一〇二五條ハ未タ確定セス但法定ノ推定家督相
 繙人ノ單純承認ヲ得テ隠居ヲ爲シタルニ因リ家督相續開始シタル場合ニ在
 リテハ(民法第七五二條法定ノ推定家督相續人ハ隠居者ト共ニ隠居ノ届出ヲ
 爲スコトニ依リテ單純承認ノ意思ヲ表示シタルモノナルカ故ニ(前第十節參

黙其者ハ家督相續ノ開始ト同時ニ隠居者ノ財産上ノ権利義務ヲ無限ニ繼承ス

入夫又ハ前戸主ノ直系卑属タル法定ノ推定家督相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス(民法第一〇二〇條)

隠居ニ因ル家督相續及ヒ開始ノ場合ニ在リテハ隠居者ト共ニ隠居ノ届出ヲ爲シタル指定ノ家督相續人(前第十節参照)家督相續ノ開始ト同時ニ戸主ト爲ル

(注意)裁判所ノ許可ヲ得ナ隠居ヲ爲シタル場合(民法第七五三條、第七五四條)ニ在リテハ指定ノ家督相續人ハ單純又ハ限度ノ承認ヲ爲スコトヲ得
シタル指定ノ家督相續人ハ單純又ハ限度ノ承認ヲ爲スコトヲ得
以上ニ掲ケタル以外ノ場合ニ在リテハ指定若クハ選定ノ家督相續人又ハ民法第九百八十四條ニ掲ケタル者(民法第九七九條乃至第九八五條、第九五二條参照)

財產上ノ権利義務ヲ繼承ス

裁判所ノ許可ヲ得ナ隠居ヲ爲シタル場合(民法第七五三條、第七五四條)ニ在リテハ指定ノ家督相續人ハ單純又ハ限度ノ承認ヲ爲スコトヲ得

以上ニ掲ケタル以外ノ場合ニ在リテハ指定若クハ選定ノ家督相續人又ハ民法第九百八十四條ニ掲ケタル者(民法第九七九條乃至第九八五條、第九五二條参照)

ス決定ノ形式ヲ以テ裁判スルハ申立ニ付ナフノ裁判カ義務的口頭辯論ヲ前提要件ト爲サツル法意ヨリシテ疑ヲ容レス(第七〇條)民事訴訟法第七六四條(民事訴訟法第二百四十五條第三項)ノ適用ニ依リ送達スヘキハ勿論ナリ)又該決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(民事訴訟法第四五五條之ニ反シテ申立ヲ是認シタルナリト認メタルトキハ公示催告ヲ爲ス面シテ此公示催告ハ申立ヲ是認シタル裁判ヲ當然包含スルモノナルヲ以テ決定ノ形式ニ於テ申立人ニ言渡ヲ爲サルトキハ職權ヲ以テ送達ヲ爲サツルヘカラス(民事訴訟法第二四五條公示催告ニ表示スヘキ事項ハ第一ニ申立人ノ表示ニシテ通常申立人ノ氏名住所身分及ヒ職業ヲ表示シテ之ヲ爲ス第二ニ不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲サツルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコトニシテ第三ニ不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコトニシテ眞實ナル事情ヲ探知スルノ法意ニ出ツ(第四ニ公示催告期日ノ指定ニシテ這ハ届出期間ノ終了期ト爲リ民事訴訟法第七六八條)……看做ス引用除權判決ノ申立(民事訴訟法第七六九條及ヒ該期日又ハ其以前ニ爲シタル届出ニ關スル辯論期

日ト爲ル(第七二條、第七〇條、民事訴訟法第七六五條又公示催告期間ハ六箇月以上ナルコトヲ要ス第七二條第二項是レ民事訴訟法第七百六十七條ニ規定シタル期間ニテハ短ニ失スレハナリ公示催告ハ民事訴訟法第七百六十六條ノ規定ニ従ヒテ之ヲ公示ス然レトモ不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ該公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示スルヲ以テ足リ又公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二箇月以上ナルヲ以テ足レリトス(第七三條蓋シ此場合ニ於テハ不在者ノ死亡ヲ推測スルコトヲ得レハナリ失踪宣告ノ判決言渡前ニ於テ不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ不在者ハ申立人ニ對シ訴ヲ提起シ受訴裁判所ノ判決ヲ受ケサルヘカラス故ニ公示催告手續ハ該判決ノ確定ニ至ルマテ之ヲ中止スルヲ當然トス是レ人事訴訟手續法第七六條ノ規定アル所以ナリ失踪ニ關スル手續ニ於テハ特定ノ相手方ナク又其宣告ハ第三者ニ對シ効力ヲ及ボクヲ以テ管轄裁判所ハ失踪ノ宣告ヲ正當ト爲ス事實ノ存在ニ付キ證明アルニアラスシハ判決ヲ爲スコトヲ得ス(疏明ニテハ不十分ナリ)(民法第三二條、人事訴訟手續法第七四條第四六條失踪ノ宣

告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ條理上相繕財產ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス(第七七條、民事訴訟法第七二條)失踪宣告ノ取消ニ關スル手續ノ費用ニ關シテハ民事訴訟法第七二條以下ノ規定ニ依ル(裁判)

(三) 失踪ノ宣告ノ取消 失踪ノ宣告ノ取消ノ申立て失踪ノ宣告ノ判決ニ對スル不服ノ申立てハ失踪宣告ノ申立て同シク不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第七一條)見失踪ノ宣告ト其取消トハ事物ノ關聯アルヲ以テ審理ノ便宜上兩者ノ申立て不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタルニ外テラナルヘシト雖モ立法上ノ見解トシテハ民事訴訟法第七百七十四條第二項ノ適用シ該區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬セシムルヲ正當ト信ス又管轄裁判所ニ附置シアル檢事局ノ檢事ハ公益上事件ニ付キ共助ヲ爲ス第七四條第四五條第二項ノ管轄裁判所及ヒ檢事ノ共助失踪宣告ノ取消ハ訴ノ形式ヲ以テ民事訴訟法第七百七十四條第二項第一號乃至第六號ニ規定シタル事項若クハ失踪者ノ生存スルコト又ハ民法第三十條及ヒ第三十一條ニ定

タル時ト異ナリタル時ニ死亡シタルコトヲ原因トシテ申立ツルモノニシテ
（第七八條第七〇條、第八〇條民事訴訟法第七七四條前者ノ原因ニ基ク訴ハ利害
關係人ヨリ（第七八條後者ノ原因ニ基ク訴ニ依リ容易ニ其目的ヲ達スルコトヲ得
二條）失踪者本人ハ後者ノ原因ニ基ク訴ニ依リ容易ニ其目的ヲ達スルコトヲ得
ルヲ以テ特ニ前者ノ原因ニ基ク訴ヲ提起スルコトヲ得セシムルノ必要ナシ失踪
宣告ノ申立人ニ對シ（第七〇條民事訴訟法第七七四條第二項申立人ニ對スル
訴ヲ）之ヲ提起ス該申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トシ檢事カ當事
者ト爲リタル後原告カ死亡シタルトキハ民事訴訟手續法第二條第四項及ヒ第
五項ノ規定ノ準用ニ依リ當事者ヲ定ム（第七八條第二項本條ニ於テハ前項ノ訴
ニ付テハ）ノ明文アルヲ以テ反對推理上第八十條ニ規定シタル訴ニ付テハ失踪
宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方ト爲スコトヲ得サルニ似タ
リ然レドモ斯ル論結ハ申立人カ死亡シ且ツ其相續人ナキ場合ニ相手方ナキ結果
トシテ第八十條ニ規定セル訴ヲ提起スルコトヲ得サルニ至ルヲ以テ論理解
釋上前示ノ如ク論結シタル獨逸民事訴訟法第九百七十四條第二項ニ於テハ申

立人カ死亡シ若クハ其居所不分明ナルカ又ハ外國ニ在ルトキハ檢事ニ對シテ
不服ノ訴ヲ提起スヘキ旨ヲ規定シ前段ノ論結ノ如キ區別ヲ設ケサリシ此等ノ
申立権利者カ自ラ申立ヲ爲スニハ民事訴訟法ニ規定シタル訴訟能力ヲ有スル
コトヲ要ス蓋シ失踪ノ宣告ノ取消ハ一ノ訴訟行為タルヲ以テナリ檢事ハ失踪
ノ宣告ノ取消ヲ申立ツル職權ヲ有セス蓋シ失踪ノ宣告ノ取消ハ主トシテ失踪
者及ヒ利害關係人ノ利害ニ關スルニ止マルヲ以テ檢事ヲシテ失踪ノ宣告ノ取
消ヲ申立ヲシムルノ必要ナケレハナリ該不服ノ申立ノ訴ノ提起期間ハ民事訴
訟法第七百七十五條ノ規定ニ依ル（第七〇條但シ失踪者ノ生存スルコトヲ理由
下スル場合ニ於テハ此限ニ在ラス何トナレハ斯ル期間ノ經過ニ依リ實際上生
存セル者ヲ死亡シタル者ト看做スコトヲ得サレハナリ第八〇條但書）訴訟能力
及ヒ申立失踪ノ宣告ノ取消ハ重大ナル事項ナルヲ以テ裁判所ハ職權ヲ以テ適
當ナル調査ヲ爲ナナルヘカラス（第七四條第二項第四六條數箇ノ不服申立ノ訴
アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スベシ是レ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲スノ目的ニ
當フ而シテ併合シタル場合ニ於テハ民事訴訟法第五十條ノ規定ヲ適用ス是レ

當事者間ニ権利關係ヲ合一ニ確定セシメントノ法意ニ外ナラス第七十九條、本條ノ位置ヨリシテ本條ハ第七十八條ニ規定セル訴ニ付テノミ適用アリトノ見解ハ正當ニアラサルヘシ原告ハ其訴ヲ自由ニ取下クルコトヲ得ルヤ言ヲ俟タス裁判所ノ職權及ヒ申立人ノ權能管轄裁判所ハ調査ノ結果失踪ノ宣告ノ判決ニ對スル不不服申立ノ訴ヲ理由ナシト認メタルトキハ棄却ノ判決ヲ言渡シ反對ノ場合ニハ失踪宣告ヲ取消ス旨ノ判決ヲ言渡ス該判決ハ其性質上總テノ人ノ爲メニ又ハ之ニ對シテ效力ヲ有ス而シテ其效力ノ内容ハ民法第三十二條ノ定ムル所タリ訴訟費用ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ裁判ス(裁判)

附言 人事訴訟手續法第八十一條ハ人事訴訟手續法ノ施行期ヲ定メタルニシテ人事訴訟手續法第八十二條ハ新法カ舊法ヲ廢止スル當然ノ法則ヲ明示シタル規定ニシテ又人事訴訟手續法第八十三條ハ人事訴訟手續法施行ノ當時未タ完結セザル人事訴訟事件ニハ新法ヲ適用スヘキ旨ヲ明示シタル規定ナリ裁判所ハ廢止セラレタル手續法ニ依リ裁判權ヲ行フコトヲ得サルヲ以テ新法タル人事訴訟手續法ヲ未完結ノ人事訴訟事件ニ適用スヘキハ當然ナリ

人事訴訟手續法

法律士 松岡義正講述

人事訴訟手續法

人事訴訟手續法

總序
第一章 人事訴訟手續法目次

人事訴訟手續法目次

緒言	一
第一章 婚姻事件ニ關スル手續	二
第二章 養子縁組事件ニ關スル手續	二四
第三章 親子關係事件ニ關スル手續	二六
第四章 相續人廢除事件ニ關スル手續	三二
第五章 隱居事件ニ關スル手續	三四
第六章 禁治產ニ關スル手續	三六
第七章 準禁治產ニ關スル手續	六七
第八章 失踪ニ關スル手續	六八

人事訴訟手續法目次 終

人事訴訟手續法目次

人事物權手續目次

人事物權手續目次

一章八章	契約二關ニシテ手續	六八
二章九章	華郵常規ニ關スル手續	六九
三章六章	禁海通ニ關スル手續	三六
四章五章	華郵半規ニ關スル手續	三四
五章四章	財物人賣船建替ニ關スル手續	三二
六章三章	底千關船串替ニ關スル手續	三一
七章二章	養子鄉縣半替ニ關スル手續	三四
八章一章	船賃半替ニ關スル手續	三一
九章	附則	一一

人事物權手續目次

五 拙當權ノ效力ニ關スル明治三十四年四月十二日ノ特別法律
第三章 不動產ノ競賣

競賣法ハ總則ノ規定(同法第一章)ノ外動產ノ競賣、不動產ノ競賣、船舶ノ競賣並ニ抵當不動產ノ増價競賣ノ規定同法第二章乃至第五章ヲ設タルモ動產不動產並ニ船舶以外ノ財產權(例へハ株式ノ如キ)ノ競賣ニ付キ其規定ヲ存セス是蓋シ競賣法ハ主トシヲ物上擔保權實行ノ規定ニシテ債權株式等ノ如キ財產權ヲ目的のトル質權ノ實行方法ハ民法第三百六十七條ニ其規定ヲ存シ又タ民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リテ其實行ヲ爲スコトヲ得ル旨ノ規定アルカ故ナルヘシト雖モ(民法第三六八條債權株式等ノ如キ動產ニモ不動產ニモ將タ船舶ニモ屬セナルモノノ競賣スルノ必要ハ必シモ物上擔保權ノ實行ノ場合ニ限定セラルヘキモノニ非ナルヲ以テ(商法第一五三條參照)競賣法ノ規定ハ此點ニ於テ欠缺アルモノト謂ハサルヘカラス

右各種ノ競賣手續中予ハ先づ不動產競賣ノ手續ニ付キヲ説明シ總則ノ規定ハ

之ヲ各箇ノ手續ノ中ニ説カントス蓋シ不動産ノ競賣ハ實際ニ其適用頻繁ナルト解シ難き點多キモノアリト信スレハナリ

第一節 不動産競賣ノ申立

競賣法ニ依ル不動産ノ競賣ハ執達吏ノ職務ニ屬スルモ不動産ノ競賣ハ其手續ノ開始ヨリ目的物ノ換價並ニ賣却代金ノ配當ニ至ルマテ總テ裁判所ノ職務ニ屬スヘキモノトセラルコト民事訴訟法ニ依ル競賣手續ニ於ケルト同様ナリ詳言スレハ不動産ノ競賣ハ競賣ヲ爲ナントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲スヘキモノニシテ(第二二條第二項民事訴訟法第六四一條第一項同第二六條以下裁判所構成法第一〇條苟ニ適法ナル競賣ノ申立ヲ爲ナントスル者ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄裁判所ノ指定ヲ申請スベタ之ニ依リ指定セラレタル區裁判所カ其管轄裁判所ト爲ルヘク(第二二條第二項民事訴訟法第六四一條第一項同第二六條以下裁判所構成法第一〇條苟ニ適法ナル競賣ノ申立アリタルニ於テハ裁判所ハ申立ノ旨趣ニ從ヒ職權ヲ以テ配當ニ至ルマテノ手續ヲ執行シ之ヲ完結

スヘキモノトス
申立カ適法ト爲ルニハ申立人カ實體法上其申立ヲ爲スノ權利ヲ有シ又タ其申立カ法定ノ形式ヲ具備スルコトヲ要ス之ヲ細説スルコト左ノ如シ

第一款 實體法上ノ要件

競賣法ニ從ヒ競賣ノ申立ヲ爲シ以テ其手續ノ實施ヲ求メントスル者ハ實體法上之ヲ求ムルノ權利アル者タラサルヘカラサルハ動産ノ競賣ニ於テモ不動產ノ競賣ニ於テモ將タ船舶ノ競賣ニ於テモ同一ナリ之ヲ不動產ニ付テ謂ヘハ例ヘハ一般ニ申立人カ被申立人ニ對シ既ニ辨濟期ノ至レル債權ヲ有スルノミナラス先取特權ニ在テハ一般ノ先取特權者ハ先フ不動產以外ノ財產ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非ナレハ不動產ニ付キ辨濟ヲ受タルコトヲ得ス又ク不動產ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的タラサルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要スルカ如キ民法第三三五條抵當權ニ在テハ抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ其抵當不動產ニ付キ所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル者

ニ競賣メ其旨ヲ通知スルヲ要シ此第三取得者カ其通知ヲ受ケタルヨリ一个月内ニ法定ノ要件ヲ具備スル書面ヲ登記ヲ爲シアル各債權者ニ送達シテ以テ抵當權ヲ滌除スルノ意思ヲ表示セナリシトキニ限り抵當不動產ノ競賣ヲ申立ツルコトヲ得ルカ如キ(民法第三八一條第三八二條等)モノアリト雖モ此ノ如キハ全ク實體法上ノ問題ニ屬スルモノニシテ隨テ特ニ競賣法ニ於テ研究スヘキ事項ニ非サルヲ以テ之ヲ省キ茲ニハ唯タ實際上最適用ノ頻繁ナル抵當權ノ滌除ニ關シ少シク陳フル所アラントス

第一 抵當權實行ノ通知並ニ滌除ノ書面ノ送達方法

抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ民法第三百七十八條ニ掲ケアル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要スルハ前陳ノ如クナルモ法律ハ如何ナル方法ニ依リ之カ通知ヲ爲スヘキヤノ規定ヲ設ケス換言スレハ書面ヲ以テ之ヲ通知スヘキヤ又タ其他ノ方法ヲ以テスヘキヤ又タ同シク書面ニ依ルモ郵便ニ付シテ之カ通知ヲ爲スヘキヤ使者ヲシテ通知書ヲ持參セシムヘキヤノ規定ヲ存セサルヲ以テ何種ノ方法ニ賴ルモ妨ナキモノト信ス然レトモ抵當

權實行ノ通知アリタルヤ否ノ事實ハ抵當權者ノ競賣ノ申立ノ適法不適法ノ競
アル所ニシテ縱令事實ニ於テ其通知ヲ爲シタリトモ不動產ノ競賣ノ申立アルニ方リ第三取得者カ其通知ヲ受ケナリシ旨ヲ主張シテ競賣申立ノ不適法ナルコトヲ主張スルコトシト謂フヘカラス此場合ニ於テ抵當權者カ右事實ノ存在ヲ證明スル能ハサルトキハ其競賣ノ申立ハ實體法上ノ要件ヲ備ヘサルモノナリトシテ裁判所ヨリ却下セラルルヲ免カレス

然レトモ執達吏規則ニ依ルニ執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ告知及催告ヲ爲スノ權限アルモノニシテ執達吏規則第二條第一號正當ノ理由アルニ非サレハ其職務ヲ行フヘキ委任ヲ拒ムコトヲ得サルモノナルヲ以テ(同規則第一〇條)抵當權實行ノ通知ハ之ヲ執達吏ニ委任シテ爲サシメ競賣ノ申立ヲ爲スニ方リテハ執達吏ヨリ該通知濟ノ證明書ヲ受ケ之ヲ不動產競賣ノ申立書ニ添附シ以テ其通知ノアリタルコトヲ明ニスルヲ便トス

次ニ右ノ通知ヲ受ケタル第三取得者ヨリ各債權者ニ爲スヘキ滌除ノ意思表示ニ關シテハ民法ハ唯書面ニ法定ノ事項ヲ記載シ登記ヲ爲シアル各債權者ニ之

ヲ送達スヘシトノ旨ヲ規定スルモ(民法第三八三條)其送達ハ如何ナル方法耶チ如何ナル機關ニ依リ之ヲ爲スベキカニ付キ別段ノ規定ヲ存セスト雖モ右陳ヘタルト同一ノ理由ニ因リ同シク執達吏ニ依テ之ヲ爲スヲ便トス

第二 抵當權實行ヲ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ爲シタル場合

抵當權實行ノ通知ハ隔地者間ニ在テハ其通知カ相手方ニ詳言スレハ之ヲ受クヘキ第三取得者ニ到達シタル時ヨリ其效力ヲ生スベキモノトス(民法第九七條然リ而シテ隔地者間ノ場合ニ於テモ執達吏カ其通知ヲ受クヘキ本人ニ其通知書ヲ交付シ其事實ヲ明ニ爲シ置クトキ——例へハ該書面ノ送達證書中ニ本人ニ交付シタル旨ヲ記載スルカ如キ——ハ通知ノ有無ニ付キ別段ノ問題ヲ生スルコトナキモ其通知ヲ受クヘキ者ニ其住居ニ於テ出會ハナルニ依リ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ通知書ヲ交付スルコトハ間接執達吏ノ爲ス所ニシテ此場合ニ於テハ通知カ果シテ法定ノ第三取得者本人ニ到達シタルモノト認メ得ヘキヤ否ノ問題ヲ生ス(民事訴訟法第一四五條仍テ按スルニ民事訴訟法ニ於テ違法ナル送達ナルカ故ニ民法上ニ於テモ又タ適法ニ通知ノ到達アリタルモノ

ナリト謂フヘカラナルヤ勿論ナリト雖モ民法第九十七條ニ所謂意思表示ノ到達トハ意思表示ヲ受クヘキ者ニ對シ取引上通常行ハルル方法ニ依リ當該意思表示ヲ知覺シ得ヘキ機會即テ可能性ヲ與フルコトト解スヘタ隨テ書面ニ依ル意思表示ナルトキハ該書面カ取引上通常行ハルル方法ニ依リ受取人ノ面前ニ提出セラレタルカ又ハ之ニ交付セラレタルカ又ハ受取人ノ住居ニ於テ家族タル其親族又ハ雇人ニ交付セラレタルトキニ其書面ノ交付アリタルモノト認ムヘク受取人カ果シテ此提供セラレタル機會ヲ利用シテ内容ヲ知リ得タルヤ否ヲ問フノ必要ヲ存セス隨テ受取人カ其書面ヲ閲讀セシシテ其儘ニ拙郷スルモ又其受取ヲ拒絶ヘルモ意思表示ハ到達アリタリト認ムルヲ妨クルコトナク加之受取人カ已ニ對シテ提供セラレタル書面ヲ閲セサリシコトニ付キ何等過失ナキトキト雖モ尙ホ書面ノ到達アリタリト謂フヲ妨ケナルモノト信スルカ故ニ同説一八九九年『一ツノ氏獨逸民法論』一卷一七六頁本間ノ場合ニ於テモ第三取得者ニ對シ抵當權實行ノ通知アリタリト謂ヒ得ヘキモノト信ス

第三 第三取得者カ抵當權ノ實行ノ通知ヲ受クコトヲ避クル場合

抵當權者カ其抵當權ヲ實行セントスルニハ其旨ヲ抵當不動產ニ付キ所有權地
上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ニ通知セサルヘカラシテ此手續ヲ履
マサル競賣ノ申立ハ不適法トシテ却下セラルヘキセノタルハ既ニ陳ヘタルカ
如シ隨テ債務者カ一度抵當權ヲ設定シタル後ニ於テ債務ノ辨濟ヲ怠リ爲メニ
債權者ヨリ抵當權ヲ實行セラレントスルニ方リテ故ラニ其所有權ヲ第三者ニ
移轉スルカ又ハ第三者ノ爲メニ抵當權又ハ永小作權ヲ設定シ
債務者ヲシテ之ニ抵當權ノ實行ヲ通知セサルヘカラサルノ煩難ナル手續ヲ履
蹊セサルヘカラサラシメ而カモ此場合ニ於テ右第三取得者ヲシテ力メテ其所
在ヲ晦マシ抵當權ヲシテ到底右ノ通知ヲ爲スコト能ハサラシメ以テ其實行ヲ
阻碍セントスル者少シトセズ

然レトモ按スルニ抵當權ヲ實行スルノ必要ナルモノハ法定ノ第三取得者ヲシ
テ滌除ノ手續ヲ執ルニトヲ得シムルカ爲メニシテ此滌除ノ權利ナルモノハ主
トシテ第三取得者ノ保護スルノ手段ナルコトヲ知ラハ抵當權者ノ爲メ
ヘキ抵當權實行ノ通知ノ義務ハ第三取得者ニ對シテ負擔スルノ債務ナルヲ

約ニ依リ條約國民ニ與フル所ノ權利ハ單純ナル特許法ノ保護以外ニ於テ種種
ナル便宜ヲ與ヘタルモノナリ故ニ無條約國民ノ本邦ニ居住セサル者ニ特許法
ノ適用アル結果トハ大ニ異ナルナリ例へハ右條約第二條ノ規定ノ外ハ多クム
無條約國人ノ享有スルコトヲ得サル特權ナリ

第三章 特許權ノ發生

第一節 出願

一 特許ヲ受ケントスル者ハ特許局長ニ出願スヘシ(特第十一條)

特許局長ハ特許法、意匠法及ヒ商標法ノ規定ニ依リ發明、意匠及ヒ商標ニ關スル
事務ヲ主宰スル獨立ノ官府ナリ然ルニ官制ニ依レハ農商務大臣ハ發明、意匠、商
標ニ關スル事務ヲ管理シ特許局ハ農商務省ノ一部局ニシテ特許局長ハ農商務
大臣ノ一屬僚ナリ各省官制通則第十八條、農商務省官制第一條及第四條舊特許
條例、意匠條例、商標條例等ニ於テハ發明、意匠、商標ニ關スル主任官府ハ農商務大
臣ニシテ例へハ特許條例第三條、第四條特許局長ハ單ニ其屬僚トシテ其主務ヲ

掌理シタルニ過キサリシヲ以テ官制ノ規定ト離隔スル所ナカリシナリ然ルニ
特許法意匠法及ヒ商標法ニ於テハ先キニ農商務大臣ノ職權タリシ事務ヲ移シ
テ特許局長ノ權限ト爲セリ此ニ於テ特許局長ハ特許ヲ與ヘ意匠及ヒ商標ノ登
録ヲ爲シ又ハ特許又ハ意匠商標ノ登録ヲ取消ス等ノ權限アリ特許法第十一條、
第三十八條、意匠法第八條第十二條、商標法第七條、第十一條凡ソ此等ノ權限ハ法
律ノ規定ニ依リ直接ニ特許局長ニ與ヘラレタル權限ニシテ農商務大臣ノ屬僚
トシテ其事務ヲ主管スルモノニ非ス故ニ特許法意匠法及ヒ商標法ニ依リ特許
局長ニ屬スル職務ニ關シテハ農商務大臣ハ監督權ヲ有セザルナリ農商務大臣
ハ發明意匠、商標ニ關シテハ意匠及ヒ商標ニ關スル商品ノ類別ヲ定ムルノ外意
匠法第四條商標法第五條些ノ權限ナシ然カモ此意匠及ヒ商標ノ商品ノ類別ヲ
定ムル事項ニ限り之ヲ農商務大臣ニ留保セルハ抑モ何ノ必要ニ基キタルヤ立
茲者或ハ特許、意匠、商標三法ノ施行細則カ農商務省令ヲ以テ發布セラルヘキカ
トヲ豫見シテ此規定ヲ置キタルモノナルカシ然レトモ特許又ハ登録ノ事務カ
直接ニ特許局長ノ權限トシテ規定セラレタル以上ハ此法律施行ノ責任ハ寧ロ

特許局長ニ在リト見ルヘキニ非ナルカ而シテ實際ニ於テハ三法施行細則ハ明
治三十六年六月二十日農商務省令ヲ以テ發布セラレタリ

特許局ハ農商務省ノ一部局ニシテ(農商務省官制第四條)特許局長、特許局審査官、
特許局審判官ノ事務所ナリ局ニ審判課、發明審查課、意匠審査課、商標審査課、再審
査課、登錄課、庶務課、圖書館及ヒ外事掛アリ、審判課ニ於テハ發明意匠及ヒ商標ニ
關スル事務ヲ掌リ、發明審査課、意匠審査課、商標審査課ニ於テハ發明意匠、商標ノ
審査ニ關スル事務ヲ掌リ、再審査課ニ於テハ發明意匠及ヒ商標ノ再審査及ヒ發
明完成前後ノ審査ニ關スル事務ヲ掌リ、登錄課ニ於テハ原簿登錄、特許證及ヒ登
錄證ノ下付、特許料意匠料及ヒ商標料ノ收入及ヒ原簿ノ閲覽ニ關スル事務ヲ掌
リ、庶務課ニ於テハ書類ノ受理及ヒ檢閱、由願簿ノ登錄及ヒ願書ノ番號通知、發明
品意匠品及ヒ商標使用品ノ出品届、報酬額ノ決定、圖面ノ調製書類ノ原本及ヒ證
明公文通信、特許代理業者ノ登錄明細書及ヒ公報編纂ニ關スル事務及ヒ他課ノ
主管ニ屬セザル事項ヲ掌リ、圖書館ニ於テハ審判及ヒ審査ニ關スル圖書、標本、雑
形及ヒ見本ノ出納保管及ヒ觀覽ニ關スル事務ヲ掌リ、外事掛ニ於テハ萬國工業

所有權保護同盟條約外國特許局トノ通信報告、内外國ノ文書翻譯及ヒ特許意匠及ヒ商標ニ關スル外國法令ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ル(農商務省分課規定第二十六條乃至第三十五條)

特許局ニ審判官、審査官、審査官補アリ専任審判官ノ定員ハ五人、専任審査官ノ定員ハ十五人、専任審査官補ノ定員ハ二十人トス

二 出願ハ一發明毎ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ(施行細則第一條同書式第一號)願書ヲ差出シタル日時ハ即チ出願ノ日時ニシテ特許法第二條第四條ノ適用上極メテ重要ナルモノナリ願書ノ差出日時ハ何ニ由リテ定マルヤ願書ヲ特許局ニ差出シタルトキハ特許局ハ受取證ヲ交付スコトハシ此受取證ノ日附ハ即チ願書ノ差出日時ヨリ願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ヲ以テ願書差出日時トス(施行細則第六條、第七條)願書差出日時ハ特許局備附ノ出願簿ニ登錄セラル

願書差出日時ハ出願ノ日時ニシテ此日時以前ニ於テ公知公用トナリシ發明ハ

特許ヲ受クルコトヲ得サルコト特許法第二條ノ規定スル所ナリ此規定ノ例外三アリ(一)同盟條約國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者一箇年以内ニ同一發明ニ付特許ヲ受領セシタルトキハ其出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス(特第十四條)(二)政府若クハ府縣ノ開設シタル博覽會若クハ共進會ノ出品者ニシテ豫メ特許局長ニ届出ヲ爲シタル者カ博覽會若クハ其進會ニ於テ物品ヲ受領セシ日ヨリ六箇月以内ニ特許ヲ出願シタル者ニ限リ最初届出ノ日ニ於テ其出願ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス(特第十五條第一項、第二項)(三)同盟條約國ニ於テ萬國博覽會ヲ開設シタル場合ニ其國政府カ出品者ニ與ヘタル特許出願期間内ニ於テ出願ヲ爲シタル場合ニハ其國政府ノ定ムル所ニ從テ出願ノ效力アリ(特第十五條第三項)

三 願書ニハ發明ノ明細書及ヒ必要ノ圖面ヲ添附スヘシ特許局長ハ必要ト認ムル時ハ更ニ雑形若クハ見本ノ提出ヲ命シ又書類雑形又ハ見本カ不明瞭又ハ不完備ナルトキハ訂正補充又ハ改造セシムルコトヲ得特第十一條(施行細則第八條)

明細書ニ記載スヘキ事項ハ(一)發明ノ名稱(二)發明ノ性質及ヒ目的ノ要領(三)圖面ノ略解(四)發明ノ詳細テル説明又利用發明ナルトキハ其發明ト原特許發明トノ關係(五)特許ノ請求範圍即チ發明ノ要部是ナリ圖面ニハ發明ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ利用發明ナルトキハ尙其發明ト原特許發明トノ關係ヲモ示スヘシ特許出願カ適法ナルトキハ特許局長ハ之ヲ受理シ是ヨリ發明審査ノ手續ハ開始セラル

第二節 審査

一 形式上適法ナル出願アリタルトキハ特許局審査官其發明ヲ審査ス(第十二條)

凡ソ特許ヲ與フル手續ニ關シテ二主義アリ一バ申告主義ト稱シ他ハ審査主義ト稱ス申告主義トハ特許ノ出願ニシテ形式カ適法ナルトキハ其發明カ特許ヲ與フヘキ要件ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査セシテ直チニ特許ヲ與フル主義ナリ佛國此主義ヲ取レリ審査主義ニ於テハ之ニ反シテ形式的ノミナラス實體的ニ

發明ヲ審査シテ特許ヲ與フヘキモノト決定シタル後ニ始メテ特許狀ヲ下付スル主義ナリ米國制度是ナリ此他ニ猶審査主義ノ一種トモ見ルヘキ公告主義アリ此主義ニテハ出願アリタルトキハ一定ノ期間内其發明ヲ公告シテ之ニ對シテ異議アル者ヲシテ異議ヲ申立テシメ異議ヲ申立ツル者ナキニ於テハ之ニ特許ヲ與フルナリ即チ異議者ヲ待テ審査ヲ爲スナリ是レ英國主義ナリ尙又審査主義ト公告主義トヲ併用スルモノアリ獨逸(匈瑞)ノ如キ是ナリ我國ニテハ米國ノ審査主義ニ倣ヘリ審査主義審査公告主義モハ審査ノ爲メ時日ヲ要スルヲ以テ出願者ハ直ニ特許ヲ得ル能ハス公衆ハ速ニ其發明ノ使用ヲ受クルコト能ハサル不便アリト雖無審査主義ニ於ケルカ如ク特許ヲ受クル資格ナキ發明カ漫リニ特許セラルルカ如キ處少ナシ蓋シ無審査主義ノ理由トスル所ハ特許ヲ受クル資格ナキ發明ノ爲メ特許ヲ受クルモ他人ヨリ無効ノ審判ヲ請求セラルニ於テハ直ニ其特許ヲ失フヘキヲ以テ高キ特許料ト煩雜ナル出願手續トヲ犠牲ニ供シテマテ溢リニ特許ヲ出願スル者無カルヘク會マ之レ有ルモ利害ノ相反スル者ハ直ニ其無効ヲ主張スルニ躊躇セラルヘキヲ以テ此虛偽ノ特許

「シテ永ク社會ニ存立セシムルコト無カルヘシ然ラハ無審查主義ハ左シタル
弊害ナクシテ迅速ニ發明ヲ世ニ公ニスルノ利益甚タ大ナリト云フニ在ルナリ
然レトモ無審查主義ノ制度ノ下ニ於テ特許出願者ノ多クシテ從テ又無效ノ審
判ヲ受タルモノモ甚タ多キハ事實ナリ果シテ然ラハ特許ノ信用甚タ薄弱ニシ
テ工業社會ヲシテ危惧セシムルコト尠カラナルヘシ故ニ若シ審查制度ヲ適宜
ニ編成シテ適當ナル審查官ヲ置クニ於テハ其無審查主義ニ優ルニト萬萬ナル
ヘシ然レトモ彼實用意匠ノ如キ輕易ナル發明ニ對シ短年月ノ保護ヲ與フルモ
ノニ在リテハ審查主義ハ餘リニ莊重ニ過クヘク特ニ實用意匠ノ如キハ之ヲ流
行物品ニ施ス場合少カラサルヲ以テ審査ノ爲メ時日ヲ費ヤスハ甚タ事宜ニ適
セナルモノアリ故ニ嚴重ナル審查主義ヲ取ル獨逸ニ在リテモ實用意匠ニハ無
審查主義ヲ取レリ

二 特許局審査官ハ發明ノ審査ヲ爲シ之ニ特許ヲ與フヘキヤ否ヤノ決定ヲ與
フ此決定ヲ査定ト謂フ審査ヲ爲シ査定ヲ與フルハ審査官ノ法定權限ニシテ特
許局長ト雖之ヲ冒スコトヲ得ス乃チ審査官ハ獨立セル官府ニシテ特許局長ノ
區裁判所ニ證據調ヲ嘱託スルコトヲ得第三十一條

審査ハ發明ノ審査ナリ出願カ形式上適法ナルヤ否ヤヲ審査スルモノニ非ス出
願ノ形式ノ審査ハ特許局長ノ權限ナリ審査官ノ權限ニ非ス審査官ハ發明ノ實
體法上ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査スルアリ例ヘハ最先ノ發明ナルヤ否ヤ
第二條ニ該當セナルヤ否ヤ等ノ點ヲ審査スルナリ

審査官ノ査定ニ四種アリ一ハ特許ヲ與フヘシト云フ査定假リニ之ヲ特許査定
ト稱セシニシテ二ハ特許ヲ與フヘカラスト云フ査定ナリ通常之ヲ拒絶査定ト
謂フ三ハ所謂ル抵觸査定ニシテ四ハ發明完成前後査定ナリ

(一) 審査官ニ於テ特許査定ヲ爲シタルトキハ特許局長ハ其發明ヲ特許原簿ニ登
録シ特許證ヲ下付ス特許權ハ此ニ發生スルナリ特許證ニハ特許局長之ニ署名

シ明細書及び必要ノ圖面ヲ添附ス(第十三條)

(二)審査官ニ於テ拒絶査定ヲ爲シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ出願人査定到達ノ日ヨリ六十日以内ニ再審査ノ請求ヲ爲サナルトキハ拒絶査定ハ確定ス(第二十一條、第二十三條)

(三)審査官ニ於テ出願ニ係ル發明カ他人ノ出願中ノ發明又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ關係人即チ出願人及ヒ他人ノ抵觸ヲ受ケタル發明ノ出願人又ハ特許權者ニ送付ス關係人ニ於テ此抵觸査定ニ不服アルトキハ査定書を到達ノ日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ具シテ再審査ヲ請求スルコトヲ得第二十二條、第二十三條

發明ノ抵觸トハ二箇以上ノ發明カ其全部又ハ一部ニ於テ相一致スルヲ謂フ同一ノ發明ニ對シテ二箇以上ノ特許ヲ與フルコトナシ我特許法ニ於テハ其内最先ノ發明ニ特許ヲ與フル主義ヲ取レルコト前ニ述ヘタル所ナリ此ニ於テ審査官カ發明審査ノ結果他ノ發明ト相一致スル點ヲ發見セル場合ニ於テハ特許査定ヲ與フルコトヲ得サルハ勿論拒絶査定ヲ爲スコトモ亦得ヘカラス乃チ先ツ抵觸査定ヲ爲スナリ
發明ノ相抵觸スル場合ヲ想像スレハ種種ノ場合アルヘシ然レトモ出願以前ニ於テ已ニ公知公用ト爲リシ發明ト抵觸セル場合ニ於テハ直ニ拒絶査定ヲ與フルカ(全部抵觸ノ場合又ハ抵觸セサル部分ニノミ特許ヲ與フヘシト云フ査定ヲ爲スヘキヲ以テ抵觸査定ヲ爲スコト無シ未タ公知公用ト爲ラサル發明ト抵觸スル場合ハ(一)他人カ已ニ特許ヲ受ケタル發明ニシテ出願人ノ出願前ニ於テ公知公用ト爲ラサリシモノト抵觸スル場合(二)他人ノ出願中ノ發明ト抵觸スル場合及ヒ(三)未タ出願セサル發明ニシテ尙公知公用ト爲ラサルモノト抵觸スル場合アルヘシ而シテ法文ニハ(一)及ヒ(二)ノ場合ニハ抵觸査定ヲ爲スヘキコトヲ規定スレトモ(三)ノ場合ニ關スル規定大シ蓋シ(三)ノ場合ハ稀有ナルヘシト雖亦絶無ノ事ニ非ス例ヘハ甲ノ出願後ニ於テ乙ナル者カ同様ノ發明ヲ公ニシタルカ如キ場合ニ於テ審査官ハ甲乙ノ發明ノ抵觸ヲ發見セリ此ニ於テ甲ト乙ト孰レカ最先ノ發明者ナルヤテ判知セサレハ甲出願ニ特許査定ヲ與フルコトヲ得サルハ勿論拒絶査定ヲ與フルコトモ亦得ヘカラス而シテ最先發明者ヲ判斷スル

法定手續タル抵觸査定ハ此場合ニハ之ヲ取ルコドヲ許サストスレハ審査官ハ唯々タ通常ノ審査手續ニ依リテ之ヲ判断セサルヘカラス

(四) 査定確定シタルトキハ(初審査査定ニ不服ヲ申立テスシテ確定シタル場合、不服ヲ申立テタルモ不服理由ヲ不當トスル再査定アリテ之ニ對シテ審判ヲ請求セスシテ確定シタル場合及ヒ審判ヲ請求シタルモ不服理由ヲ不當トスル審判ニ依リテ確定シタル場合皆同シ)特許局長ハ關係人ヨリ發明ニ關スル始末書ヲ徵シ審査官ヲシテ發明完成ノ前後ヲ審査セシム審査官ハ其審査ニ依リテ發明ノ先後ヲ判断シ若シ他ノ發明カ最先發明ナルトキハ本出願ヲ拒絶シ本出願ノ發明カ最先ナルトキハ之ニ特許ヲ與ヘテ他ノ出願ハ之ヲ拒絶シ又ハ之カ特許ヲ取消スヘキ査定ヲ爲スナリ而シテ此査定ニ不服アル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得ナレトモ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ審判ヲ請求スルコトヲ得又其審決ニ不服アル者ハ其審決カ法律ヲ適用セス若ハ不當ニ法律ヲ適用シタリト云フ理由アルトキハ審決書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得ヘシ(第二十四條、第三十五條)

雜報

○町村ノ區ノ性質 町村ノ區カ特ニ財産ヲ所有スルトキハ法人ヲ成スモノナルコトハ昨年四月三十日大審院民事聯合部ニ於テ認メタル所ナルカ今回同一趣旨ノ判決ヲ下サレタルヲ以テ之ヲ紹介スル序ニ右聯合部ニ於テ爲シタル判決ノ理由ヲ舉ケンニ同理由ニハ「町村制第百十四條ニ於テ町村内ニ在ル區ニシテ特ニ其財産ヲ所有スル場合ニ區會ヲ設ケ其事務ヲ審理スルコトヲ得セシタルモノハ區ハ獨立シテ權利ノ主體タルヘキコトヲ認メタル結果ニ外ナラス又同法第百十五條ニ依レハ區有財產ハ町村長ノ主管ニ屬シ町村長ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ從ヒ其事務ヲ管理スヘキ者ナルヲ以テ區ニ區會ノ設ケナキ場合ニ於テ區有財產ノ管理ヲ爲スニハ其行為性質ニ因リ町村會ノ決議ヲ經ヘキコト毫モ疑フ容レス而シテ町村ニ關スル訴訟ニ付キ町村長カ町村ヲ代表シ訴訟行為ヲ爲スニハ町村會ノ決議ニ依ラサルヘカラナルコトハ町村制第三十三條第十一號ニ規定スル如クナルヲ以テ其區有財產ニ關スル訴訟ニ付キ區

ヲ代表スルニモ亦町村會ノ決議ニ依ルヘキモノニシテ其決議アルトキハ別ニ
區會ヲ設ケ其決議ヲ要スル手續ヲ俟タシテ區ノ訴訟ヲ爲スコトヲ得セシム
ルモノト解釋セサルヘカラス蓋シ町村内ニ在ル區ニシテ特ニ財產權ヲ有スル
以上ハ其保全ニ必要ナル訴訟モ亦其名義ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ必然
ノ結果ニシテ町村制第百十五條ハ斯ル必要アル場合ニ町村長カ區ヲ代表スル
コトヲモ豫想シタル規定ナリト謂ハサルアリトアリテ區ノ法人タ
ルト同時ニ町村長ノ代表權ヲモ判定シタルモノナリ今下ニ紹介スル判例ハ最
新ノモノニシテ區ノ性質ニ關スルモノナリ曰ク町村内ノ區カ其固有ノ財產ヲ
所有スルトキハ其區ハ之ヲ一ノ法人トシテ其財產ノ主體タラシムルヲ以テ財
產ヲ所有スル所ノ町村内ノ區ハ獨立ノ法人ヲ組織シ之ヲ組織スル所ノ簡簡ノ
住民ト其人格ヲ異ニスルコトハ我町村制ノ精神ニ徵シテ明確一點ノ疑ツ容レ
テル所ニシテ此解釋ハ又タ當院ノ判例ニ依テ夙ニ採用セラレタル所ナリト(審大
事会明治三十六年六月十六日第一二號詒取財部宣告)

○行政裁判法第十七條第三項ノ法意 行政裁判法第十七條第三項ニ曰ク各

省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得スト此規定
ヲ一見スルトキハ一旦各省又ハ内閣ニ訴願シタル者ハ復タ訴訟ヲ提起スルコ
ト能ハサルカ如シ之ニ關シ行政裁判所ハ判決シテ曰ク「行政裁判法第十七條第
三項ハ訴願ト行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テモ絕對ニ行政訴訟ヲ
爲スコトヲ得ストノ規定ニアラス故ニ誤ツテ二者ヲ合セ之ヲ爲スモ其一ヲ取
下ケタル場合ノ如キハ初メヨリ之ヲ爲ササルト同一視スヘキモノナルヲ以テ
其取下ヲ爲ササル訴願又ハ行政訴訟ニシテ法定ノ期間内ニ提起シタルモノナ
ルニ於テハ之ヲカ成立ニ妨ケアルヘキノ理ナシト(廿八號營業免許組合事件明治
三十六年五月二十七日第一一部宣告)

○他人ノ營業免許取消ノ請求 明治二十三年法律第百六號第三號ニ所謂營
業免許ノ拒否又ハ取消トハ他人ニ屬スル營業ニ付テモ若シ之カ爲メニ權利ヲ
毀損セラレタリトスル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルノ意ナリヤ否ヤハ疑
ナキコト能ハス行政裁判所ハ此問題ヲ解決シテ曰ク「原告告求ノ要旨ハ原告ハ
東京府荏原郡羽田村大字羽田ヨリ同村鈴木新田ニ至ル海老取川筋ニ於テ明治

三十年十月五日ヨリ向フ五箇年間乗合渡船營業ヲ出願シ許可ヲ得テ營業中明治三十三年三月藤田七右衛門外九名ハ同一ノ場所ニ於テ同營業ヲ爲シ原告ニ妨害ヲ加ヘント企テシヲ他人ノ調和ニ依リ原告ハ収益金ノ内四割ヲ分與シ藤田等ハ妨害ヲ爲ササルコトノ契約ヲ結ヒ其後明治三十五年八月同營業期限ヲ更ニ向フ五箇年間延長アランコトヲ出願シ其許可ヲ得テ營業中ナリシニ右藤田七右衛門外九名ハ該契約ニ背キ尙餘人ヲ加ヘ前同一ノ場所ニ於テ架橋營業ヲ爲サンコトヲ出願セシニ被告ハ原告カ渡船營業ノ既得權アルコトヲ認知シ居ルニモ拘ラス本年三月十八日藤田等ノ出願ニ對シ許可ヲ與ヘタリ該許可ハ原告ノ營業ヲ全ク無効ニ歸セシメ即チ原告ノ渡船營業ヲ取消シタルト同一ノ結果ナルヲ以テ之カ取消シヲ求ムト云フニ在レトモ本件ハ他人ノ得タル營業免許ノ取消シヲ請求スルモノニシテ明治二十三年法律第百六號ノ三ニ規定セル營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件ノ範圍ニ入ルヘキモノニアラス又他ノ法律勅令中本件ノ如キ訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキ限ニアラス(不審處分取消請求事件明治三十六年第三百三十四號渡船營業ニ關スル)



明治三十六年八月卅一日印刷
明治三十六年九月一日發行 (定價金貳拾錢)

東京市牛込區牛込矢來町三番地
編輯者 東京市牛込區牛込矢來町十一番地

萩原敬之

東京市芝西久保明舟町十一番地
印 刷 者

小宮山信好

東京市麴町富士見町六丁目十六番地
電話番號百七十四番)

東京市麴町富士見町六丁目十六番地
司 法 省

發行所 指 定
法 政 大 學

(明治二十二年十二月九日內務省許可)
(明治二十二年十一月四日第三種郵便物認可 每月十五回一日五日六日八日
十日十一日十五日廿三日廿五日廿六日廿九日三十日逕行)

